

# 一橋大学バレーボール部

## 第6回海外遠征(台湾)報告書



文責 2年酒井雄太 1年藤田征吾

# 目次

<b>I.遠征内容</b> .....	<b>3</b>
概要.....	4
遠征総括.....	6
日程詳細.....	9
<b>II.部門別報告</b> .....	<b>11</b>
(1)交流・討論会部門報告.....	12
(2)経済部門報告.....	25
(3)歴史文化部門報告.....	31
<b>III.班別行動報告</b> .....	<b>36</b>
<b>IV.全体感想</b> .....	<b>51</b>
<b>V.如水会台湾支部訪問</b> .....	<b>54</b>
<b>VI.事前学習</b> .....	<b>58</b>
<b>VII.参考資料</b> .....	<b>60</b>
2023年台湾遠征計画書.....	61
国立台湾大学・一橋大学交流日程表.....	63
収支報告書.....	64
参加者名簿.....	65
討論会プレゼンテーション資料.....	66
討論会各班プレゼンテーション発表用スライド.....	68
事前学習個人レポート.....	74
事前学習班別個人レポート.....	76
事前学習班別個人スライド.....	77

# I . 遠征内容

## ～はじめに～

私たち一橋大学体育会バレーボール部は、如水会、およびOBの皆さまのお力をお借りして、2023年1月11日から1月15日まで台湾を訪問、国立台湾大学（以下NTU）と交流をして参りました。バレーボール部にとって今回の海外遠征は6度目でしたが、無事成功を収めることができました。

頂きましたご支援・ご助力に対し御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。今回の海外遠征につきまして以下の通りご報告申し上げます。

## ～概要～

### (1)日程(2023年1月11日～1月15日)

#### 1月11日

羽田空港発(エバー航空191便)

台北松山空港着

#### 1月12日

NTUバレーボール部との交流試合、交流討論会

#### 1月13日

NTUバレーボール部との交流試合、臺北大數據中心(TUIC)の訪問、

如水会台湾支部との夕食会

#### 1月14日

班別行動

#### 1月15日

台北松山空港発(エバー航空190便)

羽田空港着

### (2)参加者

一橋大学体育会バレーボール部 男子部三年10名、二年6名、一年5名、

付添OB1名 合計22名

氏名詳細は添付の参考資料の通り。

なお、山浦拓OBがNTUとの交流(1月12日、13日)に現地参加。

### (3)交流先

NTU男子バレーボール部

(4)交流試合会場

NTU(10617 台北市大安区羅斯福路4段1号)

総合体育館および旧体育館(交流試合) 武道場(交流討論会)

(5)宿泊場所

第一大飯店(台北市中山区南京東路2段63号)

(6)その他、訪問先

臺北大數據中心(110 台北市信義区市府路1號東北區5樓)

圓山大飯店(台北市中山区中山北路4段1号)

## 遠征総括①

2年 酒井雄太

一橋大学バレーボール部にとって今回の台湾遠征は4年半ぶり6度目、台湾遠征自体は2018年以來2度目となる。すべての遠征においてバレーボール部OBおよび如水会から多くのご支援を頂き、回を重ねるごとにますます充実度の高い海外遠征となっている。海外遠征は2010年以來隔年で行ってきたが、今回の海外遠征は新型コロナウイルスの影響で4年半ぶりの遠征となった。

今回の海外遠征はこれまでの遠征と比較し、特筆すべきはかなりイレギュラーな状況で行われた遠征だったことである。準備期間については本来であれば1年以上の期間をかけてゼロからじっくりと旅程案や交流先を選定し、費用等もうまく調整することが慣例であった。しかしながら今回の海外遠征では学生支援課の活動制限の緩和と台湾の入国制限の緩和が行われた時期が2022年10月末と非常に遠征に近かったため約3か月間という短い準備期間のもとで海外遠征へ臨む必要があった。また費用面についてもウクライナ侵攻に伴う燃料費の高騰や遠征までの準備期間が短かったことが影響し、従来の遠征よりも非常に高額になった。4年半ぶりの海外遠征であるため海外遠征経験者が現役にはいないという状況であったことや新型コロナウイルスの感染対策、台湾有事等の緊急事態に慎重に備える必要があったことも準備を困難なものにした要因の一つだ。しかしながらこのようなイレギュラーな状況下でもなんとか遠征を成功させ、一橋大学バレーボール部の新たな伝統である海外遠征を途切れさせずに継承できたという点で本遠征は重要な意味を持つと考えている。遠征期間中に体調不良者や負傷者が出ることなく、また台湾有事等の危惧していた事態も発生せずに22名全員で帰国の途につくことができた。

今回の海外遠征で強く感じたのは人の優しさである。準備期間においては、旅行会社の担当者の方やOB OG会幹部、如水会担当者の方、学生支援課の方等様々な方の協力があった初めて海外遠征を実施することができた。短い準備期間の中で旅行会社の方と何度も打合せを行い、こちらの要望を早急に計画に落とし込んでいただいたり、OB OG会幹部の方からは何度も助言をいただくなど大変お世話になった。また、事前にあらゆる事態に対応できるよう大使館や台北駐日代表処等様々な機関とコンタクトを取り緊急事態が発生した場合の協力を快諾していただいた。遠征期間内においても現役参加者はもちろん、同行していただいた鷹田様や台湾大学の学生、企業訪問の担当者の方など様々な方の協力があり無事に遠征を終えることができた。イレギュラーな状況でも多数の方が手を差し伸べてくださったことで何とか海外遠征の計画、実行が可能となった。協力していただいたすべての方に心から感謝している。

最も印象に残っていることは台湾大学との交流討論会が大成功だったことだ。今回の討論会では初めてプレゼンテーションを導入した。従来の討論に加え、プレゼンテーションを追

加することより深い議論が必要になり、交友を深めることができるのではないかと考えた。結果としてはロジカルで深い議論がすべての班で行われ、日本と台湾の違いや共通点に多く気付いている様子が見られた。また難しいトピックだったこともあり、それを乗り越えたことで各班交友関係が深まっていた。プレゼンテーション自体も多様な意見が提示され、グループごとの特色が出たとても建設的なものだった。交友関係を築けていたこと、英語でのコミュニケーションを積極的にとってしたこと、異国の学生とロジカルな議論を行うことができたこと、この3点の理由からプレゼンテーションを導入した交流討論会は大成功だったと考えている。

今回の台湾遠征はイレギュラーな状況ではあったものの様々な方の協力のおかげで無事に成功させることができた、また、台湾という地で様々なことを学び経験することができた。本遠征に対しご支援、ご尽力をいただいた如水会やOBOG会に心から感謝の意を表明するとともに、参加した部員たちがこの経験を活かし社会で活躍できる人材になることで恩返しとしたい。

## 遠征総括②

1年 藤田征吾

新型コロナウイルスが初めて確認されてからおよそ3年の月日が経過した現在でも、依然として私たちの生活は新型コロナウイルスの影響を受けているが、ワクチンの普及や医療体制の改善によって徐々にパンデミック以前の生活が戻りつつある。その中で行われた今回の台湾遠征は一橋バレーボール部にとって、4年ぶり6回目の海外遠征であったが、前回までとは大きく異なる点はいくつかあったと思われる。

まず一つ目は、遠征の時期が正月休み明けすぐであり、遠征自体が確定してからの猶予も少なかったことである。例えば前回のタイ遠征では、夏休み等を活用して事前に部員同士で対面の事前勉強会を開催し現地大学との交流会に向けた取り組みを余裕を持って行えた。しかし今回は年末年始のオフ期間にオンライン上で資料を共有したり、電話で予定のやりとりを行うなどこれまでの形を取れなかったことでやや不安が残ったままの出発となってしまったので、事前により綿密な計画を立てた上で事前準備を進めるべきであったと個人的にも反省している。ただ、本番は両校の部員の協力もあって白熱した討論会を行うことができたので、今となっては準備期間も含めて素晴らしい経験になったと思っている。

次に二つ目は、新型コロナウイルスの影響を多方面で受けたことである。一つ目として述べたこととも関連するが、台湾の新型コロナウイルス対策が頻繁に更新されたことで実施の決定が遅れたが、その一方で陰性証明などの準備には時間がかかってしまった。またパンデミックの期間中は厳しい渡航制限や国内でもさまざまな行動制限がかかっていたため、留学生との関わりを持ったことがある部員や、海外渡航経験のある部員が一橋・台湾大学ともに少なく、現地での英語によるコミュニケーションに不安を覚える部員が多く見られた。しかし、事前準備が複雑で手間がかかっても部員のモチベーションは高い水準で保たれ、英語力に関しても、いざ渡航すると受験期や大学の講義で培った単語・文法力や部活で身につけたコミュニケーション能力を発揮して、海外が初めての部員でも積極的にコミュニケーションを取る様子が見られた。

今回の台湾遠征は、過去のものとは比べるとイレギュラーづくしであったことは間違いないであろう。しかし、困難に立ち向かった分、成長の機会も多く得られたことは言うまでもない。私自身も、海外遠征担当として色々な場面でミスを犯して迷惑をかけてしまったが、その度に周りの方々に支えられて遠征を成功させることができたと感じている。最後にはなってしまったが、本部活動の海外遠征に際し様々なご支援をいただいたOBおよび一橋如水会の方々には本当に感謝している。この経験をもうすぐ入ってくるであろう後輩に伝えると共に、自分自身のこれからの人生においても十分活用していきたい。



# 日程詳細

## 1/11(水曜日) 1日目

9時30分に羽田空港に集合し、日本時間12時15分発のエバー航空191便で台北松山空港へ。台湾時間15時30分に到着。現地ガイドの陳さんと合流し、専用バスにて宿泊先の第一第飯店へ向かう。この日は移動のみで終了。

## 1/12日(木曜日) 2日目

2日目は専用バスにて国立台湾大学へ移動。午前中は総合体育館にてNTUバレーボール部と交流試合。気候の変化や天井の高い立派な体育館、移動の疲れの影響か精細を欠いたプレーが目立ちセットカウント1-3で敗北する。台湾大学に用意していただいたおいしいお弁当と一緒に頂き、日本の言葉を中国語に変換してもらうなど積極的に台湾大学の学生とコミュニケーションをとる場面が見られた。午後は武道場に移動し交流討論会を行った。交流討論会は一橋の学生2-3名、台湾大学の学生2-3名で構成される8グループに分かれ、互いに公用語ではない英語を用いて行われた。自己紹介、アイスブレイクを行った後に一つ目のトピック政治について討論を行い、グループごとに発表を行った。休憩をはさみ、二つ目のトピック「少子高齢化」と「コロナ禍における給付金」についての議論を行った。二つ目のトピックについては4グループずつ担当トピックを分け、プレゼンテーションを行った。台湾大学の優秀な学生とロジカルな議論を行い、台湾における日本との違いや共通点などを知るいい機会となった。プレゼンテーションでは各グループ様々な提案が行われるなど、有意義な結論をまとめることができた。また、プレゼンテーションの準備に時間をかけたことで各グループ内での交友も深めることができた。

## 1/13日(金曜日) 3日目

3日目も専用バスにて国立台湾大学へ移動。午前中は旧体育館にてNTUバレーボール部と交流試合を行った。環境への順応が見られセットカウント3-0で勝利を収めた。試合後は台湾大学に用意していただいたお弁当と一緒に頂いた。昼食後には広場で台湾大学の学生とバスケットボールを行う様子や、一緒にタピオカを飲む様子が見られるなど交友をさらに深めることができた。午後は台湾大学のキャンパスツアーに参加し、立派なキャンパスを見学した。台湾大学のヤシの木が植えられた一本道を台湾大学の学生とともに歩き、一橋大学に似た校舎が存在するなど日本統治時代の名残と台湾ならではの自然を感じることができた。校史館では台北帝国大学時代からの歴史を学んだ。

その後はバスを利用し、台北市役所内の臺北大數據中心(TUIC)を訪問させていただいた。TUICは台北市内外のデータを集め分析を行う企業で、地下一階の立派なオフィスを見学した。プロジェクションマッピングが施された空間の中で各自スマートフォンによる体験型学習を行い、未来の台北市の姿について各自想像しプロジェクションマッピングの中に反映されていた。また、社員の方からデータ分析や現在の台北市におけるデータの活用についてのお話を伺い、質疑応答の時間では多数の質問が飛び交った。私たちの生活とも身近なハイテク産業のお話を伺うことができ、貴重な経験となった。

夜には如水会台湾支部との会食会が開かれた。台湾に駐在されている先輩方や台湾国籍の先輩方から歓迎を受け、圓山大飯店というとても立派なホテルでモンゴリアンバーベキューを頂いた。以前と現在の大学生活の違いや台湾での生活についてなど様々なお話を伺った。また、余興として台湾クイズを準備していただくなど話が盛り上がり大変有意義な夕食会となった。

## 1/14(土曜日) 四日目

四日目は土曜日であり企業訪問が難しいことや旅費をなるべく少なくする目的から一日の班別行動を行った。事前に班長に判別行動計画書を提出させ、遠征担当が管理したうえで4つの班に分かれ10時から20時まで自由行動とした。最低限の日程であり、歴史文化の学習を全体での予定に組み込むことができなかつたため判別行動では故宮博物院または国父記念館または中世記念堂を必ず組み込むことを条件とした。詳細は各班の報告書を参照していただきたい。

## 1/15(日曜日) 五日目

12時にホテルをチェックアウトし、昼食を頂いた後お土産購入のため維格餅家を訪れた。パイナップルケーキをはじめとしたお菓子類の試食を行い、お土産を購入した。台北松山空港へ向かい、飛行機の若干の遅れはあったもののエバー航空191便にて日本へ帰国し、羽田空港に21時に到着した。

## II. 部門別報告

# (1)交流・討論会部門報告

## 総括（交流全般）

3年 常澤創

親善試合・討論会を通して、国立台湾大学の学生と二日間に渡って交流した。交流を通して、(1)台湾の文化の理解、(2)語学力、2点を向上させることができた。

### (1)台湾の文化の理解

国立台湾大学の学生と会話をすることで達成することができた。特に印象的だったのは、台湾の若者文化として日本のアニメが挙げられていたことである。バレーボールのアニメである「ハイキュー!!」が特に人気であり、台湾大学のバレーボール部員の中には、「ハイキュー!!」を見てバレーボールを初めた方もいた。一橋大学のバレーボール部員にも「ハイキュー!!」を見てバレーボールを始めた者がいるため、日本と台湾の意外な共通点に驚いた。積極的にコミュニケーションをとる部員が多くいたことで二日間の交流を通してかなり親睦を深めることができた。SNS等を活用し今後も継続的にコミュニケーションをとっていきたいと考えている。

### (2)語学力

異国の地で英語を用いてコミュニケーションを取る経験はとても貴重であり、部員の英語力向上に大きく役立った。国立台湾大学の学生との交流では日常会話レベルの英語を、討論会ではやや難解な英語を用いて会話をし、英語力を向上させることができた。また、第二外国語で中国語を履修していた部員は、中国語でコミュニケーションを取ることで中国語力を向上させることができた。休憩時間や昼食時間は英語、日本語、中国語様々な言語でコミュニケーションを行い、言語が異なる人との意思疎通経験を積むことで世界公用語である英語の重要性を感じた。討論の場合はいかにして論理的に自分の意見を伝えるかも大切になるためいかにして自分の伝えたいことをうまく伝えるかの練習にもなった。

#### 【事前勉強との関連】

私が事前に勉強した台湾の歴史を基に、国立台湾大学の学生と討論することができた。討論会のテーマであった投票率の問題では、台湾の民主化の歴史を基に議論することができた。また、英語を事前勉強内容としていた部員の資料を基に、英語を使ってバレーボールの話をすることができた。

#### 【感想】

とても貴重な経験ができた、というのが私の率直な感想である。台湾の優秀な学生との交流は、多くの部員にとって非常に刺激的であった。英語を使ったコミュニケーションも貴重な経験であり、社会人になっても生きてくると考える。

## 総括（交流試合）

3年 寺田陽紀

【日時】2023年1月12日、1月13日

【場所】台湾大学体育館

海外遠征における交流試合は、バレーボールを通じて相手校との交流を図るという位置づけである。しかしながら、スポーツ推薦も実施している台湾大学との試合は日ごろの練習の成果を試す良い機会であった。試合の詳しい流れについては他の担当者の報告を参照していただくとし、私からは我々の試合を守備面・攻撃面の双方から振り返りたいと思う。

守備面に関しては我々の強みであったレセプションの返球率が普段よりも低かったことがひとつの反省点である。ここ数か月はモルテンで練習していたこともあり、ミカサを用いた試合は感覚の違いもあっただろうが、相手の鋭いサーブに押される形となった。また1日目に関してはトスの質が非常に悪く、サイドアウトのボールを相手コートまで返せないという苦しい展開が続いた。慣れない体育館、日本との気候の違い、初めての海外での試合ということもあってか士気があがりきらず、相手のミスを待つことしか出来なかった。対して2日目は台湾という環境に慣れたのか、全員の足がよく動いており、自分たちの繋いで粘るバレーというものが出来たように思う。

攻撃面に関しては先述した通り、1日目はトスの質が悪かったため、クイックを軸に攻撃を組み立てるということができずにいた。スポーツ推薦組のブロックは非常に高く、終始スパイクで点を取るという場面は見られなかった。ただ、後半のセットからは気持ちを切り替えてサーブから攻めるということが出来たため、流れを掴む場面も見られた。2日目は1日目の反省を生かし、序盤からサーブを攻めるよう指示した。そこから相手のミスのみでなく、自分たちの攻撃で点をとることができたように思う。ただし、セット後半の競っている場面でのサーブミスが非常に多く、すんなりと勝ちきれなかったことは反省するところである。

全体として遠征慣れしていないということが、試合結果（特に1日目）に顕著に出たと思う。我々の1番の強みというのはレセプションからのクイックを活用した攻撃であるが、相手のプレーの質に大きく左右される強みの脆弱性を感じた。自分たちからのプレーで攻撃のリズム・流れを作っていくことができるサーブというものを、身長が高くないチームだからこそ磨いていく必要があると今回の遠征で再認識することができた。

最後にはなるが、今回の交流試合で見つかった課題を修正し、今後の練習に生かしていくことはもちろんだが、バレーボールを通じて生まれた台湾大学の学生とのつながりを個人としても我々一橋大学バレーボール部としても大切にしていきたいと思う。

## 総括（交流討論会）

3年 木村友輝

【日時】1月12日午後

【場所】台湾大学武道館

本レポートでは、一橋大学男子バレーボール部台湾遠征2日目の1月12日(木)に行われた、国立台湾大学男子バレーボール部との討論会について、その内容等を総括していく。



今回の討論会(以下、本討論会)では、弊部の部員3名と台湾大学の学生2~3人で構成される8つのグループに分かれて討論を行った。

本討論会では一つ目のテーマである「政治への関心」について全グループで議論したのち簡単に発表を行い、二つ目のテーマである「少子高齢化社会」、「パンデミックにおける給付金」についてはそれぞれ4グループずつが議論を行い、その内容についてのパワーポイントを作成し、全員の前で発表を行うという形式で行われた。

まず、最初のテーマについての議論では、日本では特に若者の投票率が低下しているのに対し、台湾では高水準であるという現状を確認し、日本と台湾の様々な違いを共有し、日本の投票率を改善する解決策について意見を出し合い、口頭での説明のみではあったが、全員で共有した。

二つ目のテーマでは、各グループが選ばれたテーマについて議論を進めながら、同時進行でパワーポイントを作成するという形式であった。この二つのテーマは日本と台湾のどちらもが抱える共通の問題であるため、解決策を考えるというのがゴールであった。「少子高齢化」というテーマでは問題点や原因、解決策について議論し、「パンデミックにおける給付金」というテーマでは日本と台湾との違いやそれぞれの問題点とよかった点、改善案や代替案について議論した。議論の中で、それぞれのグループ内で役割分担を決め、限られた時間の中でテーマについての議論とパワーポイントの作成を同時に行うのはかなり厳しいものであったが、お互いに協力し合って成し遂げることができた。また、各グループのプレゼンテーションは、内容や発表の形式、そしてパワーポイントのスライドなど、それぞれのグループの個性が光るものであり、多様な意見が見られ、非常に勉強になるものであった。



最後に本討論会で得られた成果や課題についてまとめる。

まずここで得られた成果としては、少人数グループでの長時間の議論であったため、自然と仲が深まり、翌日での試合やキャンパスツアーにおいても、交流が見られるなど、弊部の学生と台湾の学生との交流を深めるいい機会であったと感じる。また、本討論会においても、休憩時間や議論の合間に雑談で盛り上がるなど、国際交流として大変有意義なものになっていたと考える。また本討論会では、事前学習によって各個人がある程度は台湾の事情についての知識が身についていたため、議論が比較的円滑に進んでいたようであるから、事前学習の重要性を再確認することとなった。また、お互いに英語が母国語でないため、英語で相手の言いたいことを理解すること、また自分の言いたいことを理解してもらうことの難しさを再確認する一方で、インターネット等を使って画像などを探してわかりやすく説明することができるようになったことも、普段の大学の授業では得られないものであるため、その点についても有意義であったと考える。

その一方で課題としては、台湾の学生の中に日本語文学を専攻しているなどの理由から、日本語ができる学生が一定数いたため、交流の中で彼らの力を頼ることが多かったが、弊部には中国語ができる学生がほとんどおらず、交流の中で受け身になってしまうことが多かったように感じるため、今後は、英語圏以外に遠征をおこなう場合は事前学習として英語に限らず現地の言葉についての学習が必要であるといえる。

以上が台湾遠征における討論会の総括である。

## 内容詳細

- ・ 交流試合
- ・ 交流討論会
- ・ キャンパスツアー

### 交流試合①

2年 羽鳥邦彦

【日時】 2023年1月12日

【場所】 国立台湾大学総合体育館

#### 【概要】

初の海外試合ということもあり、序盤から動きの固さが目立つ場面が多く見受けられた。1セット目、細川のスパイクや相手のミスで7-2とリードするも、レセプションのミスやコンビのミスが積み重なり、最大で9連続ブレイクされると、自分たちで流れを取り戻すことができず、8得点差をつけられてしまう。その後竹内、細川のブロックでブレイクするも、一度開いた得点差を埋めることができず、そのまま1セット目を落としてしまう。

2セット目序盤、相手のサービスエースやこちらのコンビのミスにより台湾大学に流れを渡してしまう。中盤リリーフサーバーの積極的な導入によってブレイクを取ろうとするも上手くはいかず、相手のツアーアタックで完全に台湾大学のペースに持ち込まれてしまい、25-18で第2セットを落としてしまう。

3セット目は、2セット目からの流れを引きずったままスタートしてしまう。スパイクやレセプションのミスが続き、一時7ポイント差まで得点が離れてしまう。中盤エース細川のサービスエースやスパイクポイントによってブレイクするも、失った流れを取り戻すことができず、25-19で3セット目を落としてしまう。

本来5セットマッチであればここで試合終了となるが、台湾大学側の提案によりもう1セット行うことになった。第4セットは終始一橋大学のペースで試合が進んでいった。竹内のサービスエースを始めとした4連続得点を奪うと、藤田、細川のスパイクポイントによって得点差を最大10点まで広げ、そのまま4セット目を獲得した。

#### 【感想】

日本の大学バレーでは中々見られない高さを生かした速い攻撃をストロングポイントとするチームとの対戦だったので、終始対応できていない場面が多くあった。しかし、台湾大学も繋ぎや戦術等の面では甘い部分もあり、1セットしか獲得できなかったのは自チームの未熟さが露呈した瞬間でもあった。



また、試合後の討論会では、互いのプレーについて語り合い、打ち解けることで、スムーズな議論を演出することができた。スポーツが国際的なコミュニケーションを図る上で非常に有効なツールであることを身を以て実感することができた。





## 交流試合②

1年 河野右京

【日時】2023年1月13日

【場所】国立台湾大学体育館

【概要】

前日の試合一日目は慣れない環境でのものであったため、非常に多くのミスがみられ、全力を尽くせたとはいえない結果となった。しかし二日目の試合では台湾の気候に慣れ、動きの硬さも取れ本来の実力に近いものを発揮することができた。

第一セットは、序盤からレフト細川のブロックやミドルブロッカー竹内の2本のサーブミスで1対4と一橋大学がリードする。サーブで攻めることを目標としたため数本のサーブミスはあったものの、効果的なサーブで相手の攻撃の形を作らせず、14対15となる。その後、ライト羽鳥のスパイクでの得点をきっかけに4連続ブレイクする。レフト細川、藤田のスパイクやミドルブロッカー島田の2連続ブロックポイントで得点を重ね、そのリードを守ったまま21対25で一橋大学が第一セットを先取する。

第二セットは序盤からレフト細川のスパイクポイントで得点を重ねるも、相手チームのコンビに対応しきれず、3連続ブレイクを許し8対9と台湾大学が1点リードする。その後、両チーム交互に得点する流れが続き15対14となり、1点リードするも、相手サイドのスパイカーが要所で決め切りなかなかブレイクができないまま24対24とデュースにもつれ込む。相手サイドのスパイクで一点を返され、相手のサーブミスで一点を返すという

苦しい展開が続くも、最後はミドルブロッカー竹内のダイレクトによって 33 対 31 で第二セットも勝ち切った。

第三セットはこれまでのレフトに集める形と異なり、序盤からクイックで得点を重ねた。両ミドルブロッカーの竹内、島田で 3 得点したのに対し、台湾大学はレフト、ライトの両サイドを多用し得点を重ね 6 対 6 となる。加えて、レフトからの攻撃も使い始め、レフト細川のストレート、ミドルブロッカー島田の A クイックで 3 連続ブレイクに成功する。11 対 13 で一橋大学が 2 点リードする。しかしその後、リリーフサーバーを投入するも、3 連続のサーブミスとなり相手に流れをつかまれ 4 連続ブレイクを許す。19 対 18 と台湾大学が 1 点リード。その後、ミドルブロッカー島田のブロックポイントなどがみられたものの、相手のクイックやブロックが決まりデュースにもつれ込む。両ミドルブロッカーのクイックやレフト藤田の攻撃で確実に得点し、最後はミドルブロッカー竹内のサービスエースで決め切り、28 対 30 で第三セットも勝利する。

#### 【感想】

初めての相手であり一日目はなかなか有効な策を見出すことができなかったが、2 日目に入ると前日の反省点を修正し試合に勝ち切れた点がとてもよかったのではないかと感じた。二日間の相手のプレーから日本だと当たり前ではないようなプレーが何度も出るなどバレーボールのプレーに関しても自分の価値観が凝り固まっていたことを実感した。良いと思ったプレーは柔軟に吸収していきたい。





## 交流討論会①

3年 有田嬉来

【日時】 1月12日木曜日午後（台湾遠征2日目）

【場所】 台湾大学 武道場

【概要】

台湾大学の方々と二つのトピックについて討論した。初めに、全体を8班に分け、自己紹介などを行いアイスブレイクをした後に、台湾と日本の投票率の違いについて議論を行った。次に、少子高齢化、あるいはコロナ禍における給付金についてという二つのトピックから一つを選択し、5分ほどのプレゼンを各グループで作成し、発表を行った。

【事前勉強との関連】

事前勉強では、英語でスムーズに会話を続けるコツについて、勉強してから遠征に臨んだ。今回の討論会では、初対面の人々と政治についてのトピックを討論する必要があった。

ため、単語がわからなかったときの対処法や相槌のバリエーション、聞き返すときのフレーズ集などは討論を円滑に進めるのに役立った。政治に関する話題は、きわめて真剣でデリケートなものだが、事前に勉強したフレーズをうまく取り入れることで、失礼な発言もなく良い雰囲気での討論を進められたと思う。

### 【感想】

一つ目のトピックは、台湾の投票率はなぜ高く、日本の投票率はなぜ高いかというもので、非常に興味深かった。私の班の台湾大学のメンバーは年齢的に投票に行ったことがなかったのだが、台湾の投票システムや投票率が高くなる理由などをよく理解して討論に参加していて、台湾の若者は政治に関心が高いというのは本当なのだなと感じた。また、討論の中で、台湾では政治に関する情報を日本と比べて気軽に手に入れられるという点が興味深いと思った。ニュースなどのシリアスな情報ソースだけでなく、バラエティやミーム動画などからも政治に関する情報を入手することができるようで、政治に対するとらえ方が前提から日本とは異なるように感じ、そこが投票率の違いの一因になっているように思われる。二つ目のトピックでは、コロナ禍の給付金について議論したが、台湾はクーポンでの給付で、日本は現金での給付と違いがあり、それぞれのいい点と悪い点を出し合った後、それぞれの悪い点を改善できる案をについて議論した。改善案を考えるのは少し時間を要したが、現金給付の貯蓄に回されやすいという欠点とクーポン給付の使い道が限定されるという欠点を克服するものとして、オンラインでの給付を代替案とした。オンラインペイメントを利用すると、クーポンのように使い道が限定されないうえ政府の方で使い切る期限を設定できる点で貯蓄に回されることもなくなる。様々なトピックについて、台湾大学に人々と議論できたのは、非常に有意義だった。

## 交流討論会 ②

2年 ガットラヴ宇詩

【日時】 2023年1月12日

【場所】 台湾大学

【概要】 1月12日午後、台湾大学男子バレー部の方々と、選挙・少子高齢化・政府助成金の3つのテーマについて、グループごとにディスカッションを行った。

その際共通言語として英語を使用。

ディスカッション終了後にパワーポイントで話し合った内容をまとめた簡易的なスライドを作成し、各グループが発表して全体で討論の結果を共有した。



### 【事前勉強との関連】

英語強化を担当したため、自分は『討論会で役立つ英語表現』をテーマに事前学習を行った。意見を切り出す場合、賛成・反対を表明する場合、聞き逃した・理解できない場合、意見を求める場合など場面ごとに推奨される適切な表現を再確認できるよう整理したが、結果として非常に役立つ事前学習となったと思う。

大きく部類して選挙・少子高齢化・コロナ助成金の3つのテーマについて、台湾大学の学生らといくつかのグループに分かれディスカッションを行ったが、どの班もスムーズに討論を進行できていた。特に、選挙のテーマに関しては、「台湾における若者の投票率が極めて高いのはなぜか。」という議題を日本と台湾を対比する観点から検討した。若者の政治参加の意識に差が生じる原因を、両国の歴史的背景や政治・選挙体制から導くディスカッションは、専門的な語彙や表現を必要としたため非常に高度なものであったが、その分台湾大学の学生の政治に対する見解を詳細に聞くことのできる良い機会となった。

### 【感想】

有意義な意見交流の場となった一方、やはり全体としては英語力の低さを痛感する機会となった。ある程度の事前学習をして臨みはしたが、いざ討論が始まるとその内容の専門性から適切な語彙や表現を咄嗟に選択できず、身振り手振りを伴って伝えるので精一杯になっている場面が多々あった。

また、前述した投票率の差に関するディスカッションでは、日本と台湾の政治体制を共有することによって、これまで意識していなかった自国の政治のデメリットに気付くことができた。具体的な比較としては、日本において国民は国会議員のみを選挙で選び、その議員らが首相を指名する体制を取っているが、台湾において国民は議員と別に直接総統を選んでいる。従って、台湾では国民の政治参加が国のトップの選出をより強く左右する仕組みになっていると言え、これが政治への関心及び投票率の高さに繋がっていると結論付けた。2つの国を比較することが無ければ、政治体制が政治への関心に影響するという見方をすることがなかったので、非常に有意義なディスカッションテーマであったと思う。

さらに、台湾大学の学生らの行政に対する関心の高さにも驚かされた。コロナ禍における政府助成金の是非に関してディスカッションした際は、どの時期にどういった種類の助成金が政府から配布されていたか、それらが国民にどのような影響を与えたかなど、日常的に政治に関心を持ち主体的に情報を取り入れていることが分かる発言が多く見られ、参考にしなければならない姿勢であると感じた。

このように、今回の遠征での討論会は、これまで無かった視点を取り入れることができたと同時に、かなり多くの反省点を見出すことができた。今回得た知見や情報をこれからの学習で意識し、帰国後も有効的に活用していきたい。



## キャンパスツアー

1年 島田寧桜

二回目の台湾大学との交流試合の後、有名店「一之件」のパンを昼食にとった。その後、台湾で非常に高名なタピオカミルクティーの差し入れをいただいた。タピオカミルクティーに舌鼓をうちつつ、キャンパスツアーを開始。

台湾特有の南国的な雰囲気の内構を、台湾大学の部員と交流しながら見学した。

図書館と日本研究センターは館内に入ることが可能であり、日本のものと比較しつつ、台湾の歴史や文化に触れることができた。

日本研究センターは、台湾大学文学院が人文と社会科学分野の対話を強化し、行内の和かい日本研究人材を育成するために、2013年9月に「日本研究課程」を開設し、2013年11月1日に創設されたものであり、国内外の研究人材を跨いで統合し、新学術分野の「国際日本学」の構築と発展を目指している。同センターは、日本以外に、中国・韓国などの東アジア諸国がどのように日本を見るかを重視し、周辺からの日本研究の視野を踏まえた、マクロな角度での日本研究を行い、さらに比較の観点からの客観的分析をしつつ、研究成果を国内、海外に提供し、台湾と日本の実質的な関係を促進する。

また、台湾大学キャンパス内のほとんどの建築物は一橋大学国立キャンパスの建築物とほとんど同じくらいの時期に竣工したものが多く、図書館のタイル張りの外装と、その入口の造形はさながら東キャンパスの本館を想起させるような相貌で、建造物の歴史に関する会話でも台湾大学の学生と一橋大学の学生との間で盛り上がる場面が見受けられた。





## (2)経済部門報告

### 総括

2年 浅原大樹

今回は TUIC(Taipei Urban Intelligence Center)という台湾政府が主導しているデジタル IoT 企業(日本で言えばデジタル庁のような団体)に訪問に行った。今回の報告書ではこの訪問の大まかな内容とそこから得た学びについて書こうと思う。

まず、今回の訪問の概要について。今回は台湾の経済や企業の発展を実際に見て学ぶ事を目的に、社内見学を行った。まず特徴的だったのは先進的な内装であり、壁一面にプロジェクションマッピングで未来の台北市街の街並みを構造化したものを映し出しており、これから台湾がどのように発展していくのか、発展させて行きたいのかという構想を視覚的に見て学ぶことができた。そこでは私たちも実際にアンケートに参加し、どのような街、生活の在り方を求めているのかについて答えた。アンケートを取る事によって、今後の台湾の街がどう発展していくべきかという事柄に民意を反映させるという点で台湾の民主性を垣間見ることが出来ると思う。

さて次に向かったのはミーティングルームのような場所で、社員の方のプレゼンテーションを受けた。そのプレゼン内容については他2人の報告書に任せるとして、聞く人に分かりやすいプレゼンの進め方、図やグラフの使い方など、話の内容以外にも学ぶべき点は多くあり、大変勉強になった。

この訪問から得た学びは多くあるが、今回は日本の IoT 企業との比較という観点から得た知見について書いていこうと思う。そもそも IoT 企業とはビッグデータと呼ばれる様々な情報が大量に集積されたデータを扱うものであり、必然的に個人情報の取り扱いの仕方などが論点にあがる。日本企業の多くはこうしたビッグデータの取り扱いに不慣れであり、成長段階にあると言える。データの管理責任や使用方法などについては日本だけでなく多くの国々が苦勞している事で、何も特別な事ではない。

TUIC はビッグデータの取り方一つ一つから注意を払い、なるべく抽象的に、かつ効果的な使い方をしていた。これからビッグデータの絶対数は益々増加し、使用用途も増えていく中で、TUIC の情報化社会に対する企業倫理について学ぶべき点は多くあると言える。



## 内容詳細

### 臺北大數據中心(TUIC)の訪問①

3年 黒澤秀太郎

【日時】1月13日

【場所】TUIC

【概要】

当日は社員の方に案内され社内見学と事業内容のプレゼンテーションを受けた。まず自分たちのスマートフォンを連動させて未来の台北市を描くプロジェクションマッピングを体験した。どのようにテクノロジーを用いて台北市に変革をもたらすのかを視覚的に理解できるものであった。続いて複数の大型ビジョンが設置された大きな会議室に移動し、30分ほどの企業説明プレゼンテーションと質疑応答の時間が設けられた。プレゼンテーションでは、TUIC が実際にデータを用いて台北の都市ガバナンスの意思決定に携わった複数の事例と TUIC がこれから目指す台北市の中長期的ビジョンについて深く理解することができた。先進的なテクノロジーに触れるとともにデータを用いた社会変革とはどうあるべき

かについて学ぶことができ、今後の日本社会の課題を考える上で大きなヒントを得た。質疑応答では、当部からは3名の代表者が挙手し英語での質問を行った。本報告では以下、質疑応答の詳細についてまとめる。



### 【質疑応答】

最初に1年生の河野が、「TUICではどのような人がいて、またどのような人材を求めているか」という内容の質問をプレゼンターに投げかけた。それに対しプレゼンターは、「現在TUICには20人ほどの社員がいて、技術力のある人を政府機関、大学、他の企業などから受け入れている」と回答した。続いて1年生の藤田が、「TUICでは台北の都市データを大量に集めることに成功している。一方日本ではこのような取り組みはまだ行われていない。なぜ台湾と日本ではこのような違いがあるのか」という内容の質問を投げかけた。これに対しての回答は、「TUICは沢山のデータを集めることには成功しているが、パーソナルな情報に関してはセキュリティの観点から集めていない。あくまで数値として扱うデータのみを集めることで、利用者の信頼を得ている」という内容のものであった。最後に2年生の坂上が、「大量のデータを処理するのは大変だろうが、どのように処理しているのか」という内容の質問を投げかけた。これに対してプレゼンターは、「マクロな段階で重要な情報を分別し、有効な部分のみマイクロレベルの詳細なデータを処理している」と回答した。これら質疑応答を通じて会社の事業内容や日本との違いをより深く学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。

## 臺北大數據中心(TUIC)の訪問②

3年 小西貫太郎

【日時】 2023/01/13

【場所】 TUIC

【概要】 TUICのプレゼン内容について

The relationship between data and all of us is actually...very close.

データと我々すべてとの関係は実は…とても近いのです。

From our living environment, commute patterns, social welfare, to emergency responses, data exists in numerous daily occasions.

私達の生活空間から通勤パターン、社会福祉、緊急の応答まで、データは膨大な日々の場合に存在します。

As every day goes by, Taipei City accumulates more and more data and put them to use for the greater public good.

日が進むにつれて、台北市はよりたくさんのデータを活用し、そしてそれをより素晴らしい公共の福祉に用います。

And all of these, are the urban data of Taipei.

そしてそれらすべては…台北の都会のデータです。

And we...

そして我々は…

We integrate governments proprietary data, as well as data from various urban sensors, to make everyday decisions faster and smarter.

私達は毎日の判断をより速くより素晴らしいものにするために、都会の様々なセンサーからの情報と同様に、政府の所有しているデータを統合します。

The goal of Taipei Urban Intelligence Center is to leverage the rich urban data, and to make city governance more scientific and effective.

TUIC のゴールは豊富な都会のデータを活用して、市政をより科学的で効果的なものにするということです。

We aim to create data applications that transcend space and time limits.

我々は空間や時空の上限を超越するデータアプリケーションを創ることを目的としています。

May them be daily business operations, in-depth and cross-functional discussions, or on-site assistance, one can access the information anytime and anywhere via mobile devices.

それらは日々のビジネスの操縦であったり、徹底的で機能横断的な議論であったり、現地での補助であったりするかもしれないし、モバイル機器を通じていつでもどこでも情報を得ることが出来る。

At the meantime, we put data security as our top priority.

一方で、我々はデータのセキュリティを最重要の事柄として置いている。

Taipei City Government is constructing regulations and protocols for data transmissions, safeguarding every citizen's data privacy.

台北市当局は情報通信の規制と規約を設定し、どの市民のデータのプライバシーも自衛している。

This is how Taipei leverage its urban big data.

これはどのように台北が都市のビッグデータを活用しているかである。

And we are, Taipei Urban Intelligence Center.

そして我々は、TUIC である。

#### 【事前勉強との関連】

台湾は国自体の歴史が短いものの、その発展は目覚ましく、その中でも特に栄えている台北市がどのように市政を取っているのかについて IT という観点から学べた。データを収集して、分析された情報を基に市政の議論に活かすという姿勢は日本の政治にも取り入れるべき姿勢であると感じた。

#### 【感想】

台湾遠征中、台北市の交通は、秒数が示された信号機や、いたるところにあるシェアリングサイクリングサービスなどの、多くの技術が駆使されていると感じていた。そのような技術

を開発・管理している企業を訪問したことで、行政がいかにインフラを支えているか分かり、日本にも導入して欲しいと切に願った。

### (3)歴史文化部門報告

#### 総括

2年 酒井雄太

今回の台湾遠征は主に台湾大学の学生との交流と台湾の歴史や文化を学習することを遠征目的の柱として考えてきた。しかしながら遠征期間が短いこと、全体の旅費をなるべく抑える必要があったことから歴史文化部門の旅程を全体で行うのではなく、班別行動日にくつかの箇所の訪問を義務付ける形で行った。班別行動日には故宮博物院または国立台湾博物館を訪れること、中正紀念堂または国父紀念館を訪れることを必須とした。全体旅程ではなく判別行動日に歴史文化部門を組み込んだことで少人数での見学が可能となり、より個人の興味や嗜好に沿った学習を行うことができたと考えている。台湾という日本と関係が深いながらも、異なる歴史や文化が存在する国を訪れることで私たちの凝り固まった価値観そのものを見つめなおす良い契機になったのではないかと感じた。博物館や紀念堂を訪れ、実際に歴史を感じることはとても印象に残るいい経験になった。また班別行動という少人数かつ比較的自由度が高い状況で様々な場所を訪れることで食や台湾ならではの文化、人柄などをより強く感じることができ、文化学習という遠征目的からみると全体行動よりも少人数での行動の方が適している場合もあると感じた。

故宮博物院は台湾最大の博物館であり、世界四大博物館の一つにも数えられている。国立台湾博物館は日本によって建てられた台湾最古の博物館である。この2つのどちらかを必ず全員が訪れることで台湾での歴史を実際の展示物から学ぶことができ、日本での歴史学習だけでは習得できない新たな理解を得ることができた。また事前学習でも文化歴史班が各自レポートや共有スライドを作成したことで事前学習が歴史班ではない参加者も一定以上の知識をもって博物館を訪れることができ、とても有意義なものになったと考えている。また台湾有事の危機が取り沙汰されている現在に、台湾の歴史を学び、現在にもつながるような国家の歴史的背景を強く感じる体験をできることは貴重なことであるはずだ。中正紀念堂は中華民国初代總統の蒋介石を顕彰する施設であり、台湾の歴史を肌で感じることにとても適した場所であった。蒋介石に関する展示を見ることがや立派な建物を訪れることで蒋介石の功績の偉大さと台湾における存在の大きさを感じることができた。

国父紀念館は孫文の生誕100年に合わせて作られた施設で、中華民国の国父とされている孫文に関する思想や学説、功績を学ぶことができた。中正紀念堂、国父紀念館ともに台湾建国の最重要人物であり、二人にまつわる施設を訪れることは台湾の歴史を学ぶ上でとても大切なことだと考えている。

## 内容詳細

- ・ 故宮博物院
- ・ 中正紀念堂

### 國立故宮博物院

2年 ガットラヴ宇詩

【日時】 2023年1月14日

【場所】 台北市 國立故宮博物院

【概要】 台湾遠征4日目の判別行動にて台北市士林区にある故宮博物院を訪れた。

故宮博物院は台湾に現存する国立博物館で最大のものであり、フランスのルーブル、アメリカのメトロポリタン、ロシアのエルミタージュと並んで世界四大博物館の1つにも数えられている。

約70万点という収蔵数を誇り、常設展では中華王朝がコレクションした選りすぐりの文物が2万点ほど展示されている。

【感想】

まず印象的だったのは、博物院の建物自体である。「故宮」は宮殿を意味し、台湾の博物院の場合は中国北京の紫禁城を指す。辛亥革命勃発時、蒋介石率いる国民党が台湾に逃れ、現在の中華人民共和国・中華民国となった歴史は自明のものであるが、故宮博物院の所蔵品はその際に国共内戦の戦火を避けて中国大陸から台湾へと移送されたものである。したがって台北故宮博物院の外観は、訪問後に調べた紫禁城（現北京故宮博物院）のそれと共通する点が多くみられ、山々に囲まれた青緑色の壮麗な建物であった。台北の故郷は面積が紫禁城の9分の1ほどであるにもかかわらず、収蔵品は2倍以上に及び、戦乱の中それだけの文物を運んだという歴史に非常に重みを感じた。



(左：台北故宮博物院、右：北京故宮博物院 ※インターネットより)



次に、印象に残った展示品についていくつか紹介していく。主な展示は宋・元・明・清王朝の歴代皇帝が所有した美術品であったが、その中でもひと際目を引いたのは、『鏤彫象牙雲龍紋套球』だった。これは象牙の球を内側から何層も薄い球状に彫り剥がした精密工芸品である。清の乾隆帝が所有していた財宝の一つで、その精密さのあまり現在の技術では完成することができないという。複雑で美しい構造に班員一同、思わず足を止めて見入ってしまった。



(左：鏤彫象牙雲龍紋套球 ※インターネットより、右：肉形石)

また、故宮博物院の人気展示『肉形石』も興味深い作品だった。層状になった天然石を彫って豚の角煮を再現したオブジェであり、同じく白菜のオブジェ『翠玉白菜』（現在は展示終了。）とともに清の二大名宝とされているらしい。肉形石は豚肉の皮の部分まで本物同然に細かく細工されており技術力の高さに感心すると同時に、時間をかけて豚の角煮の精巧なオブジェをつくろうとした当時の人々のユーモアを感じ、親近感を抱いた展示でもあった。

さらに、特別展『故宮のロココ』も印象的な展示だった。ロココ様式は18世紀のフランスに誕生した繊細優美な美術様式であり、中国趣味・シノワズリの影響を強く受けた。その中でも影響が強く現れた部分が陶磁器と家具などの装飾であったが、当展示ではそういったヨーロッパの美術品が多く展示されていた。一面植物の葉やツルでデザインされた壁や、花のモチーフと金の装飾があしらわれたティーカップ、時計などの小物などは普通に見ても十分美しいものであったが、そのほかの展示が全てアジア風であったこともあり、印象がガラッと変わって目を引くエリアだった。



(特別展『故宮のロココ※インターネットより』)

このように故宮博物館の訪問は、数々の展示とともに中国の歴史をなぞらえることのできる素晴らしい機会であった。時間が限られており全ての展示を見ることができなかったのも、再び台湾に行くことがあればまた訪れたいと思う。

## 中正紀念堂

2年 酒井雄太

【日時】1月14日

【場所】中正紀念堂

【概要】班別行動日に必須目的地の一つである中正紀念堂を訪れた。中正紀念堂は蒋介石を記念して建てられた建物であり、中正とは蒋介石の本名のことである。

【感想】駅を降り、門が見えた瞬間から圧倒的な風格が漂っていた。白に統一された巨大な建物に圧倒された。このような巨大で豪壮な建物から、蒋介石は台湾の人々にとって蒋介石の存在がどれだけ大きなものかを感じることができた。建物だけでなく広場も広大で、真っ白の地面に太陽の光が反射している様子からは台湾の強力な国力を感じた。また、印象に残っているのは大きな拳銃をもって微動だにせず中正紀念堂を守っている傭兵の姿である。まるでフランスやイギリスのような傭兵の姿からは蒋介石と中正紀念堂という建造物に対する畏敬の念と傭兵のプライドが表れているようだった。中にはとても大きな蒋介石の像がそびえていた。蒋介石の像は中国の方面を向いていると台湾大学の学生から伺った。何も知らなければ蒋介石の銅像に対して立派だという感情しか浮かばなか

ただ、この話を伺った上で銅像を目にすると今の中華民国は歴史で習った通り中国での内戦に敗れた蒋介石が逃げてきて成立した国であるということを実感した。

中には蒋介石の功績についての文書や衣服などが展示されていた。歴史で学んだ人物について実際にその歴史を生で感じることで歴史学習をもう一段階上のレベルに押し上げたと言えることができたと感じた。

また台湾大学の学生から中正紀念堂という名前が一時期は台湾民主紀念堂という名前だったことも伺った。一度名前が変わってから再度中正紀念堂という名前に戻った背景にはやはり中国の存在が大きいのであろう。台湾滞在時には正直あまり台湾有事の危機が迫っているという事実を感じることはなかった。しかしながら中正紀念堂が一時期、台湾の人々にとって反中国、民主主義の象徴として扱われようとしていた事実があったことを聞くとやはり中国と台湾の関係はかなり深刻なのであろうと感じた。中正紀念堂は台湾遠征の中で中国と台湾とのよくない関係を感じる少ない機会だった。今台湾へ行くからこそ感じるができることだと思うので中正紀念堂の話を伺ったり、実際に訪問した経験は私にとってかけがえのない貴重なものだと考えている。



# Ⅲ. 班別行動報告

## 班別行動 1 班

### 1, 中正紀念堂

蒋介石の銅像が奥にあるこの中正紀念堂は、国の威厳とも言える人間を記念して建てられたものであるためか、銅像の周りには拳銃を持つ警備員がいるなど、国家としての力を示す役割もしているのだと感じた。一方でこの中に広がる敷地では、地元の人々によるダンスの練習が行われたり、催しが開かれたり、周りをランニングする人がいるなど、現地人にとって憩いの場にもなっているように思われた。





## 2. 西門

日本の原宿と言われるこの街は、街並みや建物の形、交差点がスクランブル式になっているなど要所要所で日本風の街並みをしていた。人通りは日本と比較して少なく、栄えている地域ながらもとても歩きやすい印象を覚えた。また、観光地化していることもあってか物価はほかの町と比較すると高く、日本人が多いこともあるのか、街中では日本語が飛び交う風景も見られた。

## 3. 迪化街



この街は、訪れた日が旧正月前の土曜日であったこともあり、一昔前の日本のアメ横のような雰囲気でも多く、通りの左右には至る所に出店が見られた。日本との文化の違いとしては、衛生面の意識の違いが感じられ、生肉や加工前の食材が店頭に晒してあったり、身体障害者が物乞いをしていたり日本ではなかなか見ることの出来ないような風景が広がっていた。いわゆる教科書で見ることの出来る一昔前の日本のような風景であり、このような情景が広がっていたということを考えるととても良い勉強になった。

#### 4. 淡水



淡水は河口周辺に広がる街並みで、こちらも旧正月前ということもあり、屋台が多く見られて、祭りの中のような盛況を見ることが出来た。街並みや環境は日本の横浜周辺ととても似ており、のどかな雰囲気が漂っていた。海風が吹いていることもあって、この台湾遠征の期間中が20度を超える日が多く見られる中でも、涼しく過ごしやすい場所であった。こちらも観光地化が進んでおり、現地人以外にもアジア人や西欧人の観光客が多く見られた。また、日が沈んでも催しが行われ、露店が開かれ、川や海を背景に人々が和んでいる様子が見られた。

## 5. 故宮博物院

故宮博物院は中華文化の保護施設として70万点以上の収蔵品があり、常設の展示でも1万点近くの展示物があった。時間の関係上で多くの場所を見ることができなかったが、台湾の歴史や中華民国の歴史を展示品を通して学ぶことが出来た。今回の班別行動では、街並みを中心に見ていったが、歴史を現物として残す故宮博物院ではより外国の文化に学べたと感じた。また、沖縄のシーサーに似た狛犬の展示など日本文化に似ているものもあり、近隣の文化との類似点も学ぶことが出来た。





## 班別行動 2 班

1 年 山口堅大

1.故宮博物院



中華民国の台北市にある博物館である。この博物館は、中華民国の国立博物館のうちの1つであり最大のものである。2011年5月現在の収蔵品は約68万点である（清朝が残した文物は全体の90%以上である）

その収蔵品は、日中戦争期に戦火を逃れるため、北京を離れ中国南西地域へと移された。さらに戦後、国共内戦により中国大陸から台湾へ移った中華民国政府は、故宮博物院の美術品をはじめとする貴重な文化財を選りすぐり、台湾へと運ばれたという。

歴史ある貯蔵品から温故知新の精神を学んだ。世界4大博物館と言うこともあり、非常に興味深い展示品を見ることができた。いつも国立で生活していると、歴史のことなどどうでもよくなってしまいが、上野に行って国立博物館を見るのも良いなと感じた。私は今まで新しいものにしか興味がなく、古いものの良さなどわかるものか、思っていたが、古代の人々の想いが詰まった仏像や、銅鏡を目にすると、古いものの価値もわかるような気がした。今後の就活でも伝統を大事にしている企業への評価を向上させていきたい。

## 2. 中正紀念堂

MRTの中正紀念堂駅で下車し、蒋介石を記念して建てられた中正紀念堂を訪れた。中正紀念堂では蒋介石の銅像を守っている傭兵の交代式を見ることができた。10分程度ではあったが日本ではなかなか見ることができないような光景だったため台湾の文化学習に役立つ

った。世界史で学習した蒋介石が台湾に根付いていることを実感できた。建物がとても立派で強力な力を放っているような雰囲気がした。

### 3.西門町



西門町では、火鍋を堪能した。そこで、ハーゲンダッツが食べ放題であった。日本では高単価なアイスを食べ放題にしている店が台湾には多かった。しかし、コンビニで売っているハーゲンダッツは、非常に値段が高く、日本よりも高価であった。

それについて調べてみると、日本ではハーゲンダッツの工場が群馬にあるが、台湾本土にはなく、フランスから輸入しているため、その費用が加えられ、値段が高くなっているという。世界には四つのハーゲンダッツ工場があるというが、それが日本にあるという素晴らしいことに改めて気付かされた。海外に行かなければわからなかった発見であり、非常に貴重な経験となった。

西門町は、日本が開拓に関わった土地であるということで、日本語のものが多わく散見された。私の友達が台湾に留学しているが、日本との友好関係が良好であることは、台湾でとても有名であるという。自分は海外で働こうと思っているので、さまざまな形で日本との関わりがある国を見ることができて本当に良い経験となった。就活の際にも、日本との友好関係を軸に考えていこうという気持ちが芽生え、自分の人生を大きく変えてくれるものとなった。

#### 4.九份老街



九份は台湾の一寒村に過ぎなかったが、19世紀末に金の採掘が開始されたことに伴い徐々に町が発展し、日本統治時代に藤田組によりその最盛期を迎えた。九份の街並みは、日本統治時代の面影を色濃くとどめており、路地や石段は当時に造られたものであり、酒家（料理店）などの建物が多数残されている。

実際に我々の班も、九份の茶屋を訪問したが、金の装飾が成されている箇所が多くあった。台湾の有名観光地が、歴史の流れで日本と関係があることがわかってとても有意義な時間となった。日本は台湾を国として認めていないが、中華人民共和国よりも仲が良いのは周知の事実である。それは、日本が台湾を植民地に行っているときに、台湾の方々を奴隷のように扱うことはしなかったからだという。日本は、東南アジアなどに経済支援を多数行っているが、過去の事例を参考に、努力していくべきだと思う。

自由行動を通じて、自分の人生のためになるような素晴らしい経験ができた。今後の将来だけでなく、バレーを取り組んでいる際も台湾のことを忘れずに、そこで経験したことを回顧しながら生活していきたい。

## 班別行動 3 班

3 年 竹内陸人

【2023 年 1 月 14 日】

【故宮博物院、中正記念堂、九份】

【台湾の風土や食文化、歴史的遺産についての学習】

### ○故宮博物院

私たちの班の判別行動はまず国立故宮博物院を訪問した。

ここは台湾を代表する博物院で展示数は宋、元、明、清王朝の歴代宮廷が所有した至宝を中心に約 69 万点にのぼり、そのうちの 2 万点を常設展として展示している。

中国最後の清王朝が崩壊後、北京の「紫禁城（しきんじょう）」に保管されていた歴代王朝の宝物が中華民国に継承されたため、このような数の貴重な歴史的遺産を収蔵しているのである。

私たちの班は世界史を学習した者が多く、展示物を実際に自分たちの目で見ることによって、より歴史への造詣を深めることができた。

また、故宮博物院を訪れることで歴史の重みと、皇帝や人の存在意義などについて思索することができた。



### ○中正記念堂

次に蒋介石の墓がある中正記念堂を訪れた。

ここは初代総統である蒋介石の顕彰施設で、台湾の 3 大観光名所の 1 つであり、中国の伝統的な宮殿陵墓式が採用されている。中正記念堂の「中正」とは蒋介石の本名である。

中正記念堂で有名なのは本堂で行われる衛兵の交代式だ。衛兵交代式には、台湾の陸、海、空軍から選りすぐりの精鋭が選ばれ、微動だにしない直立不動の衛兵を間近で見ることができる。

蒋介石の墓の他にも手入れのされた庭園や広場などがあり、ダンスや散歩をしている地元の人々の憩いの場となっていた。

衛兵の交代式は台湾軍隊の規律や装備、独特の身が引き締まるような雰囲気など、日本ではなかなかできない貴重な体験ができた。また、蒋介石の生涯や時代背景、日本との関係などを台湾側の視点から学習することができた。



## ○九份

最後に台湾北部の山間の街である九份へと訪れた。

九份という名前の由来としては様々な説があるようだが、台湾語で「九份」とは「開墾した土地の持分を9人で分けたもの」という意味があるそうだ。

九份は19世紀に金鉱が発掘されると当時台湾を統治していた日本は莫大な投資をし、それがきっかけで発展を遂げた。採掘される金の量が減少した結果、一時は閉山を迎えたが、「非情城市」「千と千尋の神隠し」の舞台として観光地として再興を遂げたと言う歴史がある。

九份に訪れ、明るい時間は古い建物や遠くに望む海を、夜は提灯の明かりが輝く情緒的な雰囲気を感じることができた。また、お土産店やローカル食堂が立ち並ぶ老街（基山街）では現地の食文化と元々金山であった地理的特徴を感じながら散策した。



## 班別行動 4 班

2 年 坂上光

### 【龍山寺】

まず、台北最古のお寺と言われており、学問、恋愛、安産など様々なご利益があるパワースポットとして知られる龍山寺を訪れた。仏教、道教、儒教の3大宗教の100柱ほどの神様が祀られていた。おみくじを引いたりお守りを買ったりして楽しんだ。境内には、二つの赤い木片を地面に落として自分の願いが成就するかを確かめている人があちこちにみられた。これだけ豪華なお寺にも関わらず、拝観料がかからず、お守りも一番安いものは日本円で200円たらずだったことには驚いた。

### 【迪化街】

次に、台北で最も歴史ある問屋街の一つである迪化街を訪れた。漢方薬や、からすみなどの乾物、布の問屋などが並んでいた。また、訪れた時期は旧正月前の期間にあたるため、周辺が「年貨大街」として、賑わっていた。さまざまな食べ物の屋台が出て、旧正月の華やいだ雰囲気を味わうことができた。全台湾規模の大型布市場である永楽市場にも立ち寄った。



### 【故宮博物館】

次に、世界4大博物館のひとつとされる故宮博物院を訪れた。中国歴代皇帝の至宝である約2万点の貴重な所蔵品の展示を見て、中国4000年の歴史を体感した。歴史を感じさせる展示品が並ぶ一方で、プロジェクションマッピングで模様が変わる馬や、アニメーションが投影される仕掛け、日本のチームラボのような幻想的な空間も用意されており、来館者を飽きさせない工夫が館内の隅々まで行き渡っていた。

### 【淡水】

次に、水辺付近の洋風の建物が立ち並び、夕暮れの名所である淡水を訪れた。夕方に訪れたため、たくさんの人で賑わっていた。自転車を借り、夕日がきれいに見える場所を求めてサイクリングを楽しんだ。霧が立ち込めていたため、日の入り直前の夕日を見ることはできなかったが、美しい景色を満喫した。





### 【中正紀念堂】

日本統治後に台湾を統治し、1975年に亡くなった蒋介石総統を記念し、1980年に建てられた建築物である中正紀念堂にも訪れた。日が落ちてから向かったためライトアップが美しかった。中正紀念堂のシンボルともいえる八角形の屋根は、「忠、孝、仁、愛、信、義、和、平」という孫文が唱えた八徳を表していた。天井には国章である「青天白日」の徽章を見ることもできた。建物のいたるところに施されている仕掛けから中華思想を垣間見る事ができた。



#### 【士林夜市】

最後に、台北市で最大規模を誇るナイトマーケットの一つである士林夜市を訪れた。多くの出店を回ってお土産を選んだり、食べ歩きをしたりしてにぎやかな雰囲気を楽しんだ。夜市周辺は鼻をつくような臭豆腐の匂いが充満していた。飲食店だけでなく衣類や化粧品、小さな電子機器を売る店も多く、日本でいうところの原宿のような印象を受けた。一方で、メインストリートから一歩逸れるとほとんど人気がない点は、台湾ならではの感覚を感じた。

## IV. 全体感想

## 全体感想①

2年 山田美衣

今回の海外遠征では、部員それぞれが積極的に現地の人々と交流する姿を見る事ができた。台湾大学や空港ではかなり日本語が通じたが、ローカルな屋台やホテルの方、または一般住民の方に道を尋ねる時には、日本語はおろか、英語すら通じないことがあった。自由行動の際に私たちの班は淡水や迪化街に行ったが、食べ歩きで訪れる店は小さな屋台であるため、店員の方も中国語しか話せない事がほとんどだった。そのような際には知っている中国語や簡単な英語、そしてジェスチャーを用いて会話をし、自分の意図していた事が伝わった時の嬉しさや達成感は日本ではなかなか味わえないものだった。私は事前学習の際に、自らが2年間大学で中国語を履修している経験から、現地の人々と積極的にコミュニケーションをとっていききたいということを述べた。実際に現地では屋台の店員さんや台湾大学の学生との対話の際に中国語を使ってみて、完璧な中国語を話そうと緊張しなくても、頭の中で自分が話せる文章に変換しながら伝えることや、時には英語を交えながら話す練習ができたと感じた。困ったときには班員と協力してアプローチを考えたり、スマートフォンで検索してみたりと、部員とのコミュニケーションや連携の部分でも成長を感じることができた。また、事前学習で、台湾で話される中国語と大陸で話される中国語の違いを調べた際に学習した、発音の抑揚の弱さやそり舌音の弱さは、実際に台湾大学の学生とやりとりをしている際に感じる事ができた。さらに、今回の遠征では「谢谢」というフレーズをたくさん使いましたが、事前学習で学んだ通り、返答は大学で学んだ「不客气」ではなく、「不會」で返ってきた。学んだ中国語を実際に耳にしたことで現地の生の文化に触れたようで嬉しく感じた。

台湾では、台湾大学の学生をはじめ、バスガイドの陳さん、コンビニの店員さんに大変親切にいただいたことが印象に残っている。台湾大学のマネージャー2人は大変日本語が堪能で、日本の文化について学んでいるとのことだった。悠遊カードという台湾の交通系ICカードを買う際に私たちが混乱してしまった際も、ファミリーマートの店員の方は何度も丁寧に説明してくれた。台湾人は「親日」であるということを強く感じられた一方、台湾人のやさしさに甘んじて、日本を台湾が占領していたという事実を目を背けること、日本から見て都合の良い台湾の姿しか見ようとしないことは非常に危険なことであると感じた。台湾の歴史や文化的背景などをさらに学んでいく責任があると感じた。自戒の念を込めて書き残したいと思う。

今回の遠征に関しては、一橋大学バレーボール部 OBOG の皆さま、如水会の皆さまから多大なご支援をいただいた。現地におきましても、同行していただいた OB の鷹田様、如水会台湾支部の皆さまや企業訪問で訪れた TUCI の皆さまに大変お世話になった。この台湾

遠征に関わっていただいたすべての皆さまへの感謝の気持ちを忘れずに、今後の進路決定や部活運営にこの遠征で成長できた点を活かしていきたいと思う。

## 全体感想②

3年 藤尾一成

### ○台湾大学の学生との交流

今回、2日間台湾大学の学生と交流した。

お互いに英語が第一言語では無いので、なかなか円滑にコミュニケーションを取るのは難しかったが、日本と似ているところも多く、アニメや漫画などの趣味で盛り上がった。

また、台湾大学に日本語を専攻している学生も複数おり、「日本人と日本語で話せる機会はなかなか無いので嬉しかった」と流暢に話してくれた。

### ○台湾大学との交流戦

2日間、台湾大学と試合を行った。

1日目は、日本とは異なるバレーボールの雰囲気や飲まれ、また飛行機での肉体的・精神的疲れもあり、連続で3セット落としてしまった。

しかし2日目は、日本でのバレーを取り戻し、いつも通りのプレーができたことで、3セット連続でセットを取る事ができた。

相手には台湾のU18代表もおり、独特なリズムで攻撃してきたが、プレイヤーにとって良い刺激になったと思う。

### ○台湾大学とのディベート

1日目の試合の後、学生とディベートを行った。

台湾大学は、国際教育の進む台北の中心であり、やはりその学生はとてもロジカルで、刺激を受けた。

ディベートでは「台湾では若者の選挙の投票率は高いが、日本では低いのは何故か」と

「日本でも台湾でも少子高齢化が進んでいるが、その原因と対策はなにか」の2つを議論した。特に印象的だったのは1つ目のディベートで、台湾の学生が投票したい理由の一つに、「片方の政党がトップになって欲しくない」といっており、基本的に2つの政党しかない、台湾ならではの意見が聞け、興味深かった。

### ○TUIC への企業訪問

1時間ほどのみであったが、台北の政府系IT機関に企業訪問を行った。私は大学のゼミナールでデータサイエンスを専攻しているが、集めたビッグデータをどのように活かしていくのかが分かり、四年生からのモチベーションも上がった。

また、日本ではセキュリティ面でデータをあまり集めることができてないが、国民の協力を得ることで、よりよいIT社会になっていくと感じた。

## V. 如水会台湾支部訪問

## 如水会台湾支部との会食①

1年 松本希海

【日時】2022年1月15日

【場所】圓山大飯店（グランドホテル）内レストラン

【概要】

1月13日に圓山大飯店で如水会台湾支部の方々と会食を行った。わたしは Amy さん、三菱商事の周さん、三井物産の鷹田さん、松山空港で運搬関係のお仕事をなさっている田中さんと同じテーブルでさまざまなお話を伺った。

【事前勉強との関連】

Amy さんと周さんから、台湾での選挙率の高さの理由と少子高齢化の原因について伺った。周さんによると、台湾では新聞が放送されているチャンネルや政治家が討論している番組が多くあるため、たくさんの方が政治に興味を持つことができるのではないかとおっしゃっていた。また、少子高齢化の原因については子育てにかかるコストの高さを挙げていた。前日に台湾大学の学生と行った討論会でも台湾の家は高いとは聞いていたが、在住18年目の田中さんからお話を聞いたところ、台湾の家賃はフロントやエレベーターなどの公共スペースの空間も含めて家賃を払うため、実際に使うことができる面積は紹介された分の7.8割ほどになってしまうそうだ。子どもを育てるとなると多くのスペースが必要になるため、家賃の高騰は子育てに対する積極性を低下させていく要因の一つになり得ると考えられる。

【感想】

事前勉強のほかにも、以前の一橋大学の様子やコロナ禍による社会情勢の変化などについて伺った。Amy さんが留学生として一橋大学にいらっしゃった時には、女性が学年に60名ほどしかいなかったそうだ。今では一学年300名ほど在籍していると言うと、女性の高学歴化を体感するとおっしゃっていた。コロナ禍についてのお話だと、台湾では2020年にはあまりコロナウイルスが蔓延しておらず、田中さんによると台湾の空輸便はあまり滞ることなく運行していて黒字の会社が多かったそうだ。また、台湾ではコロナ保険というものがあ保険金の支払いで潰れそうな会社が多いという話を聞き、コロナウイルス特化の保険をつくるという柔軟性があるということと同時に、台湾における環境の変化がとても速いことを知ることができた。

今回は、如水会の方々のご支援のおかげで大変充実した台湾遠征を行うことができた。如水会の方々には日頃から多大なご支援をいただき、誠に感謝しております。今後ともバレーボール部の活動を見守っていただきお助けいただければ幸いです。

【以下写真】



モンゴリアンバーベキュー



ウサギ年のパネル



如水会台湾支部の方々との写真



## 如水会台湾支部との会食②

3年 岩崎玲奈

【日時】 2023年1月13日（金）

【場所】 円山ホテル

【概要】

台湾遠征三日目の夜、ホテルからタクシーで 20 分ほどの場所にある円山ホテルにおいて、如水会台湾支部の方 6 名とバレーボール部 OB の鷹田さん、バレーボール部員 21 名の総勢 28 名で交流夕食会が行われた。円山ホテルは歴史あるホテルで、好きな肉や野菜を取り、焼いてもらうモンゴリアンバーベキューや、担々麺、旧正月の料理のビュッフェをいただいた。食事の後には如水会台湾支部の方が用意してくださったクイズ大会で文化の面での理解を深めたり、ホテルを散策して台北の夜景を一望できるところへ案内していただいたりした。

【事前勉強との関連】

交流夕食会では、台湾における少子高齢化の要因についてお話を聞くことができた。台湾では女性の社会進出が進んでいて、それが一つの要因となっている。また、子どもの教育費と住宅の賃貸料の高騰についても話を聞くことができ、台湾では家を買うときに家そのものの金額に加えて公共スペースのお金もかかるため、日本と比較しても家を買うときにお金がかかると仰っていた。

【感想】

今回の交流夕食会では、台湾の宝くじや給料、コロナ禍の保険のあり方、そして一橋大学の学生時代の話も聞くことができた。特に印象に残っているのは学生時代の話で、一橋の女子学や留学生の割合は今よりも低かったと仰っていた。

今回の台湾遠征に多大なる力添えをしていただいた如水会台湾支部の方々との交流夕食会は、文化の面で理解を深めることのできる貴重な機会であるとともに、海外で活躍する先輩方との交流は国境を越えた縦の繋がりのありがたさを実感する機会となった。

# VI. 事前學習

## 事前学習まとめ

1年 藤田征吾

本遠征では台湾への遠征に必要な知識を事前に身につけ、現地での学びをより深く充実したものにするを目的に事前学習を実施した。全員共通のものとしては遠征を通じて成長したいことや部に貢献したいことを言語化し Word 文書にまとめる課題を課し、また討論会で扱う「選挙と政治」「少子高齢化」について日本の現状や課題を理解し、台湾大学の学生との議論を活発に行えるように事前レポートを作成することも課した。さらには、渡航後のトラブルを未然に防ぎ、企業訪問や各種施設の視察でより深い学びが得られるよう、台湾の文化・経済産業・歴史、そして英語をそれぞれ担当する班わりを実施し、各個人が担当に沿ったテーマを設定してレポートやプレゼンテーションを作成し、部員間で事前に情報共有が行えるようにした。海外渡航が初めてという部員も複数いる中で、台湾を過去に訪問した経験がある部員はかなり数が限られていた。そのため、事前に様々な分野の知識を身につける機会は大変有意義なものだったと感じている。

私は海外遠征担当として、特別に台湾大学の学生との討論会に向けた英語の習得やテーマの事前知識の習得に専念した。まず英語に関しては、大勢の前での司会を英語でやる経験は私にとって初めてのものだったので、大学の PACE という英語の授業で学んだ英語でのプレゼンテーションの方法を参考に、ディスカッションの最中における進行や、大勢の部員の注意を惹きつけるプレゼンテーションの仕方について学び、計画を立てた。直前に台湾大学側の希望でディスカッションのトピックに変更が加えられたり、実際に人の前でマスクをつけて話す声が聞き取りにくくなってしまい指示が通らなくなったりと、事前学習の段階ではカバーしきれていなかったシーンで咄嗟に英語を話さなくてはならなくなることもあったが、事前にシミュレーションができていたこともあって、なんとか本番を終えることができたのは自信につながった。また議論するトピックについて十分な知識を得られていたことは、ディスカッション中の会話量の多さに直結したと思う。例えば選挙については、日本人が政治そのものに興味が少なく投票率が低い一方で、政党が主に二つしかなく選挙の結果が国の方向性を大きく左右する台湾では若者の投票率も大変高くなっていることには大変衝撃を受けて、台湾人が選挙期間をどのように過ごすかなどについて日本人の場合と対比しながら議論を進められることにつながった。そして他の部員も事前に討論会のトピックについて調べていたおかげで、議論の最中に日本語を使用することもあまりなく、相手に対する質問も多く出て、円滑にコミュニケーションが取れていたと思う。

今回行った事前学習は、時間が限られていたこともあって、各個人で取り組むものが多くなってしまったが、逆に渡航直前に大量の知識をインプットしてすぐにアウトプットできたおかげで、忘れにくい知識の蓄積ができたのではないかと考えている。今後は、部活動の海外遠征ではなくても、新しい地域に訪問する際は事前に下調べを行っていくようにしたいと思った。

## VII. 參考資料

## 2023 年台湾遠征計画書

団体名：男子バレーボール部

部長名：真野裕吉

主将名：寺田陽紀

責任者：酒井雄太

提出日：2022 年 12 月 16 日

これまでの遠征先：2010 年度豪州、2012 年度中国、2014 年度シンガポール、2016 年度台湾、2018 年度タイ

2023 年遠征先：台湾

日程：1 月 11 日～1 月 15 日

参加人数：男子部 3 年 10 名 2 年 6 名 1 年 5 名引率 OB1 名計 22 名(詳しくは下記参加名簿を参照)

交流相手校：国立台湾大学バレーボールクラブ

交流場所：国立台湾大学第二体育館

宿泊先：第一大飯店

〒10457 台北市中山区南京東路二段 63 号

TEL：+886-2-25418234

遠征目的：近年、ハイテク産業を軸に急成長を遂げる台湾を訪れ、現地の学生と親善試合や討論会を通じ相互交流をすることで、日台の相互理解を深め、国際的な視野で物事を考える知見を得ることを目的とする。また、一橋大学体育会として、台湾の現地産業・政府機関を訪問することによって、通常の個人旅行では得難いことを経験することや、バレーボールというスポーツの共通基盤を通じて他国の学生と親睦を深めることにより、部としての活動の充実を図ることも目的とする。

旅程

1 日目(2023 年 1 月 11 日)

12：15 羽田空港出発 エバー航空 191 便

15：00 台北松山空港到着

16：00 ホテルチェックイン 第一大飯店

2 日目(2023 年 1 月 12 日)

国立台湾大学との試合、討論会を予定

3 日目(2023 年 1 月 13 日)

午前 国立台湾大学との試合

午後 臺北大數據中心を訪問

午後 如水会台湾支部の表敬訪問を依頼中

4 日目(2023 年 1 月 14 日)

10：00 PCR 検査

午後 判別自由行動

5 日目(2023 年 1 月 15 日)

16：00 台北松山空港出発 エバー航空 190 便

19：55 羽田空港到着

## 2023 年台湾遠征 一橋大学・台湾大学交流日程表

1/12 (木)			1/13 (金)		
時間	内容	場所	時間	内容	場所
0900-0930	到着	総合体育館3階	0900-0930	到着	舊體育館 (古い方の体育館)
0930-0940	開会式		0930-1015	アップ	
0940-1025	アップ		1015-1145	試合	
1025-1215	試合		1145-1150	閉会式	
1230-1330	昼食	総合体育館4階	1200-1300	昼食	酔月湖の隣
1345-1415	イントロダクション	総合体育館地下1階 ダンス教室	1300-1420	キャンパスツアー	
1415-1645	交流討論会	総合体育館地下1階 ダンス教室			

### ・試合について

2 日ともボールはミカサを使用、5 セットマッチで5 セット目は 15 点先取。審判、得点は各自チームから出す。ユニフォーム着用。

### ・開会式、閉会式について

全員ポロシャツまたはウインドブレーカー等部内で統一した格好とする。

### ・交流討論会について

13:45—14:00 自己紹介等アイスブレイクを行う。

14:00—14:05 トピック 1 の紹介

14:05—14:35 トピック 1 についての議論, 発表

14:35—14:45 休憩

14:45—14:50 トピック 2 の紹介

14:50—16:00 トピック 2 についての議論、準備

16:00—16:40 プレゼン本番

## 台湾遠征 収支報告書

【収入の部】					
	項目	単価	数	金額(円)	備考
1	OBOG 会支援金			1,975,056	
2	参加者個人負担額	80,000	22	1,760,000	
3	如水会国際交流助成金			300,000	金額は未確定(OBOG 会が建て替え)
4	現役建て替え分			83,480	※印のもの
	収入合計			4,118,536	
【支出の部】					
	項目	単価	数	金額(円)	備考
1	航空券費用	104,950	22	2,308,900	航空運賃：59000 燃油サーチャージ 49950
2	宿泊費(シングル)	57,500	2	115,000	男性 17 名女性 5 名のため
3	宿泊費(ツイン)	37,500	20	750,000	朝食、昼食、夕食代、バス代含む
4	添乗員費用	280,000	1	280,000	
5	海外旅行保険料	7910	22	175,020	東京海上日動海外団体旅行保険 2A プラン
6	PCR 費用	35,000	1	35,000	3 回目未接種者が 1 名いたため帰国に必須
7	業務委託料			247,800	航空運賃代+添乗員費+PCR 費用+宿泊費の 10%
8	※レンタル Wi-Fi 費用	8,415	6	50,490	グローバル Wi-Fi 無制限プラン五日間×6 台分 建て替え
9	※レンタル Wi-Fi 保険料	1,485	6	8,910	安心保障パックフル五日間×6 台分 建て替え
10	※持参お土産代	100	50	5,000	台湾大学への記念お土産品 建て替え
11	※御礼品代	3,240	2	6,480	如水会台湾支部との夕食会と企業訪問分 建て替え
12	※しおり印刷費	504	25	12,600	完成が直前ゆえコンビニ印刷にて対応 建て替え
13	キャンセル料			123,336	
	支出合計			4,118,536	



参加者名簿

学部	学年	氏名	如水会加入状況
社会学部	3年	寺田陽紀	未加入
商学部	3年	常澤創	未加入
法学部	3年	木村友輝	加入済
経済学部	3年	藤尾一成	未加入
経済学部	3年	細川龍大	未加入
社会学部	3年	小西貫太郎	未加入
法学部	3年	竹内陸人	未加入
社会学部	3年	黒澤秀太郎	未加入
商学部	2年	酒井雄太	未加入
社会学部	2年	羽鳥邦彦	加入済
経済学部	2年	浅原大樹	未加入
商学部	2年	坂上光	未加入
商学部	1年	藤田征吾	未加入
商学部	1年	山口堅大	加入済
経済学部	1年	島田寧桜	未加入
商学部	1年	河野右京	加入済

社会学部	3年	有田嬉来	未加入
商学部	3年	岩崎玲奈	未加入
法学部	2年	ガットラヴ宇詩	未加入
社会学部	2年	山田美衣	未加入
商学部	1年	松本希海	未加入
引率 OB	S53 卒	鷹田芳明	加入済

### 討論会プレゼンテーション資料

**国立台湾大学** National Taiwan University × **一橋大学** HITOTSUBASHI UNIVERSITY

**AMIABLE GATHERING**  
@新體B1舞蹈教室

**TODAY'S OUTLINE**

1. GROUP CLASSIFICATION (10 GROUPS)
2. SELF-INTRODUCTION
3. 'SIMILARITY GAME' - FIND THINGS IN COMMON WITH GROUP MEMBERS
4. DISCUSSION #1 (ELECTION)
5. 10-MINUTE BREAK
6. DISCUSSION #2 (AGING POPULATION/DECLINING BIRTHRATE・SUBSIDY)
7. PRESENTATION BY EACH GROUP

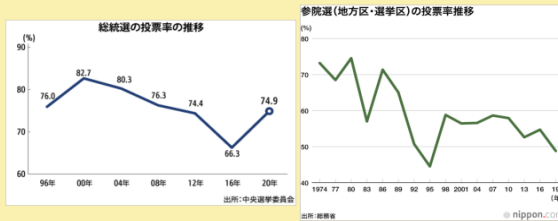
**SIMILARITY GAME**

**FIND THINGS IN COMMON!  
AS MANY AS POSSIBLE**

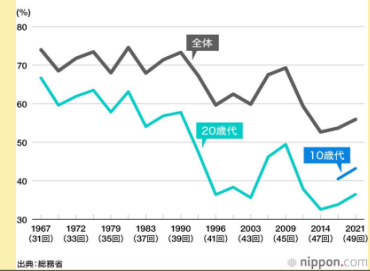
# DISCUSSION #1

# POLITICS

Have you ever voted? –why?/why not?  
How do you get political information? – newspaper, TV, smartphone



衆議院議員総選挙における  
10代・20代・全体の投票率の推移



# DISCUSSION #2

## DISCUSSION #2

### AGING POPULATION /DECLINING BIRTHRATE

What is the cause of the declining birthrate and aging population?

What problems will arise due to low birthrate and longevity?

How to solve problems?

### NATIONWIDE UNIVERSAL SUBSIDY DURING THE PANDEMIC

Pros and cons

What should the government have done?

## PRESENTATION

- Each group has about 5 minutes to present
- Make Power Point slide
- Reflect own group's discussion
- Relax

# PRESENTATION

# THANK YOU

朋友(ボンヨウ)

チェア シェ ニエン イー グェア レン フォン イェ グオ イー イェ ソウ  
 这 些 年 一 个 人 风 也 过 雨 也 走  
 ず っ と 一 人 で 生 き て き た 風 の 日 も 雨 の 日 も あ っ た

ヨウ グオ レイ ヨウ グオ ツオ ハイ ジー ダー ジェン チー シェン マー  
 有 过 泪 有 过 错 还 记 得 坚 持 什 么  
 涙 も 過 ち も あ っ た で も ま だ 頑 張 る 事 を わ ず れ て は い な い

ジェン アイ グオ ツァイ フェイ دن フェイ ジー モー フェイ フェイ ショウ  
 真 爱 过 才 会 懂 会 寂 寞 会 回 首  
 人 を 愛 し て は じ め て わ か る 寂 し く て も 振 り 返 っ て も

ジョン ヨウ モン ジョン ヨウ ニー ザイ シン チョン  
 终 有 梦 终 有 你 在 心 中  
 夢 が あ る あ な た が い る 心 の 中 に

ボン ヨウ イー ション イー チー ソウ ナ シェ リー ズー プー ザイ ヨウ  
 朋 友 一 生 一 起 走 那 些 日 子 不 再 有  
 友 よ 一 生 一 緒 に 歩 い て い こ う あ の 日 々 は も う 戻 ら な く て も

イー ジー フワー イー ベイ ズー イー ション チン イー ベイ ジュー  
 一 句 话 一 辈 子 一 生 惟 一 杯 酒  
 一 つ の 言 葉 一 生 涯 一 生 の 契 机 一 杯 の 酒

ボン ヨウ プー ツォン グー ダン グオ  
 朋 友 不 曾 孤 单 过  
 友 よ あ な た は 孤 独 じ ゃ な い

イー ション ボン ヨウ ニー フェイ دن  
 一 声 朋 友 你 会 懂  
 一 言 只 句 で 友 と わ か り 合 え る

ハイ ヨウ シャン ハイ ヨウ トン ハイ ヤオ ソウ ハイ ヨウ ウォー  
 还 有 伤 还 有 痛 还 要 走 还 有 我  
 傷 つ い て も 痛 く て も 歩 い て 行 こ う 私 も い る



## 討論会各班プレゼンテーション発表スライド

### 討論会一班

<p>Aging population &amp; declining birthrate</p> <p>TOMOAKI          TSAI          ISSEI          YUTA          WU</p>		<h3>Cause</h3> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="845 1299 1085 1456"> <p><u>Declining birthrate</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• While getting the price higher, the wage didn't rise much →they are not afford to have children</li> </ul> </td> <td data-bbox="1085 1299 1324 1411"> <p><u>Aging population</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Developments of medical technology →elderly people live longer</li> </ul> </td> </tr> </table>	<p><u>Declining birthrate</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• While getting the price higher, the wage didn't rise much →they are not afford to have children</li> </ul>	<p><u>Aging population</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Developments of medical technology →elderly people live longer</li> </ul>
<p><u>Declining birthrate</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• While getting the price higher, the wage didn't rise much →they are not afford to have children</li> </ul>	<p><u>Aging population</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Developments of medical technology →elderly people live longer</li> </ul>			
<h3>Problem</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>• delining the number of workers →economy of the country become worse</li> <li>• government need to supply much more money to elderly people</li> </ul>	<h3>Solution</h3> <table border="0"> <tr> <td data-bbox="845 1657 1085 1769"> <p><u>Aging population</u></p> <p>Extend the age limits of workers to 70 or 75 years old to increase the number of workers so that the economy get better.</p> </td> <td data-bbox="1085 1657 1324 1769"> <p><u>Declining birthrate</u></p> <p>Governments need to supply much more subsidies in order to make people being afford to have children.</p> </td> </tr> </table>	<p><u>Aging population</u></p> <p>Extend the age limits of workers to 70 or 75 years old to increase the number of workers so that the economy get better.</p>	<p><u>Declining birthrate</u></p> <p>Governments need to supply much more subsidies in order to make people being afford to have children.</p>	
<p><u>Aging population</u></p> <p>Extend the age limits of workers to 70 or 75 years old to increase the number of workers so that the economy get better.</p>	<p><u>Declining birthrate</u></p> <p>Governments need to supply much more subsidies in order to make people being afford to have children.</p>			

## 討論会 2 班

<p style="text-align: center;">Group 2 AGING POPULATION/DECLINING BIRTHRATE</p>	<p><b>What is the cause of the declining birthrate and aging population</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>1.MEDICAL TECHNOLOGY</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>2.WORK LIFE</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>3.FINANCIAL PROBLEM</p> </div> </div>
<p><b>What problem will arise due to low birthrate and longevity</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1.Increase in the social-security burden</li> <li>• 2.Shortage of labor force</li> <li>• 3.The unbalanced ratio between the population of children and the elderly.</li> </ul>	<p><b>How to solve problem</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1.Nursing home</li> <li>• 2.Pension</li> <li>• 3.Safety net(allowance, insurance, subsidy)</li> </ul> <p>◇ 地方創生 (Region Revitalization)</p>

## 討論会 3 班

<p>Nationwide universal subsidy during the pandemic</p>	<p>Taiwan</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 1<sup>st</sup> time: triple coupon</li> <li>▶ 2<sup>nd</sup> time: five times coupon</li> </ul>
<p>Japan</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 1<sup>st</sup></li> <li>▶ For everyone NT \$ 25000</li> <li>▶ 2<sup>nd</sup></li> <li>▶ For under 18 NT \$ 25000</li> </ul>	<p>Pros and Cons</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Coupon             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Pros                 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Digital coupon can save cost.</li> <li>▶ improve economy effectively</li> </ul> </li> <li>▶ Cons                 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Cost much</li> <li>▶ Limited ways to use</li> <li>▶ Difficult for elderly people</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>

## Pros and Cons

- ▶ Cash
- ▶ Pros
  - ▶ Flexible ways to use
- ▶ Cons
  - ▶ Higher risk of inflation
  - ▶ May not be able to improve the economy

## What should government do?

- ▶ Give the money in digital way
- ▶ Everyone receives subsidy directly
- ▶ Focus more on preventing the pandemic from spreading

## 討論會 4 班

# NATIONAL UNIVERSAL SUBSIDY

HATORI, SOU, TSENG, CHING

## PROS OF NATIONAL UNIVERSAL SUBSIDY

- Activate economy
- Help people in need
- Preventing the industries from the long-time decline

## CONS OF SUBSIDY

- Need to raise taxes for giving subsidy
- The shortage of supply
- More and more government bonds
- Unfair to every people

## WHAT SHOULD THE GOVERNMENT HAVE DONE?

- Not need to give subsidy
- Redemption national debt
- For national defense
- Give more to those with lower incomes

# Subsidies for Smile

*Kyoto*  
*Noo*  
*Daiki*  
*Jiu-en*  
*Chi-hung*

## Outline

1. Subsidies in Taiwan
2. Pros and cons of them
3. Subsidies in Japan
4. Pros and cons of them
5. Conclusion(development)

### Subsidies in Taiwan

- ▶ For everyone  
Coupon
  - \$3000(July 2020-December 2020)
  - \$5000(September 2021-June 2022)
- Not for everyone  
Coupon
  - \$500-\$3000 (picked up randomly)

### Pros and cons

Pros

- Everyone can use the coupons
- It can stimulate economy in short period

Cons

- Government has to print coupon
- People have to use them in a short time

### Subsidies in Japan

- Not everyone  
Rent type \$10000/month  
(Need to apply)
- For under 19 years old  
Not rent type \$20000/only once

### Pros and cons

Pros

- Cash does not have due date

Cons

- People can use them for cigarettes or useless things
- People can save them and don't use for economy



### Conclusion(development)

- ▶ Making a website for web-coupons
  - Government does not have to issue paper coupons
  - People can use them easily
  - It can be said it is safe because government can organize and protect people's accounts

<p style="text-align: center;"><b>AGING POPULATION</b></p> <p style="text-align: center;">MAYAW, CHIEN TZU-WEI, NOZOMI, REINA, HARUKI,</p>	<p><b>CAUSES</b></p> <p>[common causes]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Not so many people get married (same in Japan ) ⇒ subsidy is not enough</li><li>• There are less kinder gardens ⇒ families which fathers and mothers work cannot raise children</li><li>• medical services are developed well, so more people can live longer</li><li>• raising a child needs a lot of money ex) cram school(明光義塾 in Taipei city), lesson</li></ul>
<p><b>CAUSES</b></p> <p>[reasons in Taiwan]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• education cost for elementary schools and junior high schools are not free</li><li>• the cost of house is high</li></ul> <p>[reasons in Japan]</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• There are many services for caring elderly people</li></ul>	<p><b>PROBLEMS</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• those who bear social welfare is decreasing</li><li>• In countryside, young people move to urban areas to work. Then their elderly parents have to live alone.</li></ul>
<p><b>SOLUTIONS</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>• Give subsidy for kinder garden, education fee.</li><li>• make systems which people can get a matanity leave easily.</li><li>• long time working</li><li>• building more nursing home</li><li>•</li></ul>	




討論会 7 班

<p style="text-align: center;"><b>Nationwide universal subsidy during the pandemic</b></p> <p style="text-align: center;">Kiki Ukyo Richard David</p>	<p>Universal subsidy</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Pros</li> <li>• Poor student like us</li> <li>• Boost economy</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Cons</li> <li>• Corruption</li> </ul>
<p><b>cash</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Pros</li> <li>• Convenience</li> <li>• Decreasing the cost</li> <li>• Utility bill</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Cons</li> <li>• Storing</li> <li>• Uncontrollable</li> <li>• Inflation</li> </ul> 	<p><b>Coupon</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Pros</li> <li>• Faster stimulation</li> <li>• Discount from stores</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Cons</li> <li>• Paper waste</li> <li>• Acceptation of smaller stores</li> </ul> 

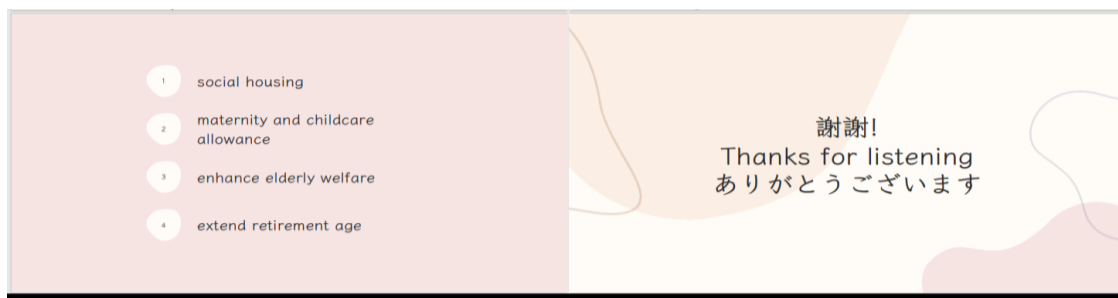
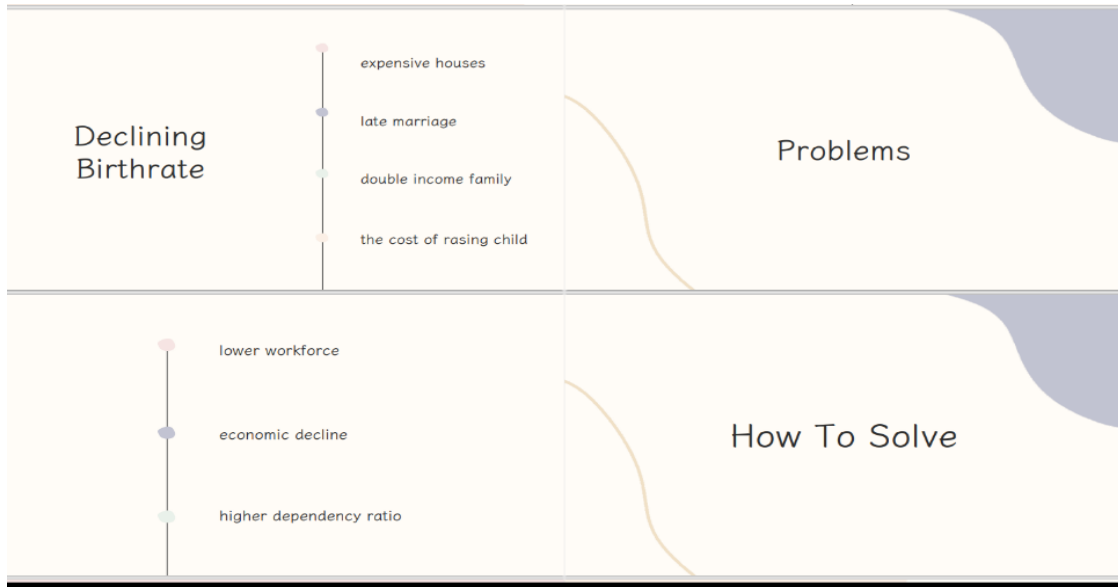
**Solution**

- Mobile payment



討論会 8 班

<p style="text-align: center;"><b>Aging Population/ Declining Birthrate</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>Process</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Cause</li> <li>2 Problems</li> <li>3 How to solve</li> </ol>
<p style="text-align: center;"><b>Cause</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>Aging Population</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• progression of medicine</li> <li>• high economic development</li> <li>• declining birthrate</li> <li>• lower death rate</li> </ul>



## 事前学習レポートまとめ

### 個人全体レポート「政治」「少子高齢化」

討論会で扱う「政治」と「少子高齢化」について

2122126Z 島田 寧校

「台湾は多くの若者が政治に関心を持ち、実際に参加している。その理由を述べた上で、自らはどのように政治に関わっている/いかを述べなさい。」

台湾はかつて、中国国民党の一党支配下にあった。しかしながら、1980年代の後半から民主化政策を開始し、1990年代には民主的な政治制度への移行を完了したという。この移行は世間から民主化の犠牲者として呼ばれるほど注目を浴びてきたのだが、そもそも、台湾は中国国民党の支配下であったとき以来の法律や制度を引き継いでおり、中華人民共和国が述べられているほど、現在の両国とのつながりはやや薄いと言えるだろう。それにもかかわらず、中国は、一貫して台湾の領有を主張しており、中国との国交を断っていない国以外には、台湾を国家と認めないのは事実である。ゆえに、台湾人は、自身の属するコミュニティの世界的な取り扱いは関心する注目は高いと考えられるので、多くの若者が政治に参加していると思われる。これを踏まえ、日本国内での法律や制度だけに興味、関心を持つのではなく、世界的な取り扱いは注目に値する政治に参加することが大事だと思う。したがって、日本がいかに早く国民皆保険制度を導入したことなどで世界に注目されていることを加味して、SDGsやUHCの推進事業を取り行っていることに注目して政治にかかわっていく。

「台湾では少子高齢化が日本と同じように深刻化している。その原因を日本と比較し、今後の発生する問題について述べなさい。」

台湾の少子高齢化の主たる原因は、経済発展による、出産に伴う機会費用の上昇、女性の高学歴に伴う平均結婚年齢の上昇、経済発展に伴う高い育児コスト、医療の発達による平均寿命の伸びに伴う高齢者を経済的に支える労働人口の割合の減少が考えられる。また、少子化が進むと、働き盛りの世代が少なくなり、さらに台湾内での稼働に納得がいけないという理由で出稼ぎに行く人も増えてくる。このような人材流出が何れも重なると、台湾での経済はさらに悪くなり、少子化がさらに加速するという悪循環に陥ってしまうと考えられる。日本では、1980年代にそれらが注目され始めてから、1990年代にはすでに対応政策が実施されていたため、近年は若干ではあるが合計特殊出生率の改善の兆しが見えてきている。一方台湾では、いまだに少子高齢化の問題点に対する取り組みが不十分で、根本的な解決策が見つかっていないため、合計特殊出生率の推移は横ばいあるいは低下をたどり、世界ワースト1位という極めて深刻な状況にある。また、台湾では、女性が仕事と家事の両方を担い、やりくりする必要があるという女性の「二重負担」が顕著視される状況にある。

レポートB討論会で扱う「政治」と「少子高齢化」について

三年 竹内陸人

「台湾は多くの若者が政治に関心を持ち、実際に参加している。その理由を述べた上で、自らはどのように政治に関わっている/いかを述べなさい。」

台湾の若者が政治に関心を持ち、実際に参加している理由は台湾という国の特徴に関連していると考えられる。現在、国際社会において台湾と国交を樹立している国はゼロであるといえる。なぜなら「一つの中国」という原則があり、中華人民共和国と国交を持つ国にはこの原則の尊重と配慮が求められるからである。またそのような現状から台湾は国際連合にも加盟できていない。このような状況において台湾の若者たちは自らのアイデンティティに対して危機感を持っているのではないだろうか。自らが所属している社会が世界では正式には承認されていないという状況は日本でも生まれた私には想像に難しい。私だけではなく日本の若者の大半に共通していることでもあると考えられる。そのような違いが日本の若者の政治への関心の低さに現れているのではないかと。

私はシンポジウムではあるが選挙投票には毎回必ず行っている。もちろん今後も継続するつもりである。政治へのかわり方としては実際に行動を起こすことが何より重要と考えられるのでこの点を意識していきたい。

「台湾では少子高齢化が日本と同じように深刻化している。その原因を日本と比較し、今後の発生する問題について述べなさい。」

台湾の国家発展委員会の発表によれば、2018年、総人口における65歳以上が占める割合が14%をオーバーし、高齢社会に突入した。8年後にはそれが20%以上に達し、超高齢社会の到来が予測されている。しかし、2017年の合計特殊出生率は1.13、2021年には米国の中央情報局(CIA)が発表した「2021年の国・地域別の合計特殊出生率予測」であり世界でも最も低い1.07となっている。年々低下する出生率が回復する様子は伺えない。

台湾メディアのアップルデイリーは政治家劉仕傑氏のコメントを紹介し、理由は5つあると指摘している。記事によると、その5つの原因とは「高い住宅価格、高い物価、低い賃金、公的支援の不足、長時間労働」の5つである。生活のストレス、仕事の重圧などがある一方で、国からの支援が不足しているのが原因と指摘している。こうした問題が若者世代にとって負担としてのしかかり、子どもを生み育てることを躊躇しているのだ。

日本と比較しても多くが共通していると感じる。首脳陣での住宅価格は年々上昇する一方で、物価も同様である。また労働時間と公的支援不足に関しては改善の見込みがあるのではないだろうか。岸田総理は先日、異次元の少子化対策に取り組みを発表したこともあり期待できる。

1. 台湾は多くの若者が政治に関心を持ち、実際に参加している。その理由を述べた上で、自らはどのように政治に関わっている/いかを述べなさい。

2020年に台湾で実施された総統選の投票率は全体で7割を超え、特に20代の投票率は9割近いという推計もある。一方で、同年日本で実施された衆議院議員総選挙の投票率は5割程度にとどまっており、20代にいたっては4割未満と極めて低い。台湾の若者の政治参加は選挙のときのみでなく、SNSで積極的な自らの政治的意見を表明する、政府の失策や不正に対し街頭デモを頻繁に実施する、といったように恒久的に政治への関心が強い。両国の若者の政治への関心ここまでの差が開いている要因としては、台湾の歴史的背景が挙げられる。

第二次大戦中、日本の植民地支配下にあった台湾は、戦後中華民国政府が本土から移って統治を始め、中華人民共和国と台湾の現在まで続く対立関係が開始した。1971年の米中国交正常化に伴って中華民国は国連代表権を失い、現在の台湾は国際社会では独立した主権国家とは認められていない状態にある。冷戦期に台湾は経済復興を遂げ、それと同時に政治的抑圧に対する反対運動が活発化、民主化要求が強まった。1988年李登輝が総統になり民主化を進め、1996年に初めて直接選挙による総統選挙の実施を達成した。

このように、台湾において民主化が実現されたのは比較的新しい出来事であり、台湾の国民の中には、民主政治はまだ完全に確立されていない、維持するには国民が政治的意見を表明し続ける必要がある、という意識が強くと考えられる。さらに、香港で民主化を求める市民と中国当局が衝突していることも大きな要因である。現在の民進党が台湾独立を目指しているのに対し、対抗する国民党は中国本土と関係が近く、台湾の動きに対して中国政府が神経をとがらせる緊張状態が続く今、中国との関係が民主化に非常に影響してくる。このような国際情勢を理解していれば、台湾の若者が自国の主権と民主政治の維持を願って、積極的に政治参加する理由も明確である。

日本では戦後、台湾の歴史に匹敵する程度の民主政治の危機が到来したことがなく、その危機感の低さが投票率の低さに現れているのだろう。自身も日本の治安の良さや外交の安定から、政治への関心を強く持つ必要性をあまり考えてこなかった。しかし、北朝鮮のミサイル発射や自民党の憲法改正案など、日本の安全を揺るがす要因は現在も多数存在し、いつ国内で重大な事態が発生するかわからない。そうなったときに後悔するのはなく、台湾の若者のように、自国の政治は自分たちの力で守るという意識を持ち、積極的な政治参加を目指すと思う。

[全班共通レポートB]

学籍番号: 3120061H  
学年: 3  
学部: 法  
氏名: 木村友輝

台湾は多くの若者が政治に関心を持ち、実際に参加している。その理由を述べたうえで、自らはどのように政治にかかわっている/いかを述べなさい。

台湾は多くの若者が政治に関心を持ち、実際に参加している理由の一つに、まず台湾が民主化して間もないということが考えられる。台湾は1996年に初の総統民選が行われて以降に当時の李登輝総統が民主化政策を推し進めるまで、国民党の独裁政権であったため、民主主義国家としての歴史は浅く、太平洋戦争終結後に初めて現在のよう自由選挙が行われ、その当時の投票率は高かった日本と同じように、多くの人が選挙に関心を持っていることが考えられる。次に考えられる理由としては、選挙活動に対する規制などが日本と比べても緩く、選挙がより身近な存在であり、多くの人が関心を持ち続けられているということが挙げられる。日本の選挙は、候補者の選挙活動について、かなり細かなところまで法律によって規制されており、選挙期間であっても候補者と投票者の距離感は離れているといえる。一方で、台湾はこうした選挙に関する規制が日本よりも緩く、人々が選挙や候補者に身近に接することができるようになっており、こうしたことが多くに人が選挙に足を運ぶモチベーションになっていると考えられる。

続いて、私自身がどのように政治にかかわっている/いかについてであるが、現在は公務員やそれに近い職種を大学卒業後の進路として目指しており、我が国の政治に実務者としてかかわっていきたくと考えている。マクロな方針は政治家が決めるのが我が国の政治の状況であるが、個人や自治体レベルでのミクロなものを決定するのは政治家ではなく公務員などであるから、そうした場で政治にかかわることができるのではないかと考えている。

台湾では少子高齢化が日本と同じように深刻化している。その原因を日本と比較し、今後の発生する問題について述べなさい。

台湾で少子高齢化が進行している理由として考えられるのは、女性の社会進出が進む一方で、結婚・出産などの支援をはじめとした少子化対策を政府が十分に行えなかったことである。日本の少子高齢化が進行した理由は、バブル崩壊による日本経済の低迷により、第2次ベビーブーム世代が就職できず、経済的理由から結婚という選択肢がなくなり、予想されていた第3次ベビーブームがおこらなかったこと、またバブル崩壊後も阪神淡路大震災やリーマンショックなどの要因により日本経済が復興しなかったことで非婚化が常態化して

2. 台湾では少子高齢化が日本と同じように深刻化している。その原因を日本と比較し、今後の発生する問題について述べなさい。

少子高齢化は先進諸国間で非常に深刻な問題であり、台湾もその例外ではない。2010年の合計特殊出生率は0.895と世界最低水準であり、その後若干の上昇を見せるも依然として世界最低の出生率が続いている。この結果少子化・高齢化が進行しているのだが、その原因としては、やはり経済状況が挙げられる。

日本においても1973年のオイルショックを機に出生率の低下が始まったことが指摘されており、台湾でも同様に1997年のアジア通貨危機に伴う景気悪化が大きなきっかけとなった。現代の一般的な台湾人夫婦は共働きが多数派であり、これも高騰する物価に対応するための策と見ることができる。台湾の若者が経済的な不安を抱えている最たる理由は住宅価格の高騰にあるという。将来子供を持つために住宅を購入する必要があると考えるのは自然であり、それが困難であるという理由から、結婚や出産に踏み切れない若者が増えている。

日本の少子化の原因としても同じようなものが挙げられる。仕事と子育てを両立できる環境の不足、結婚・出産に対する価値観の変化のほかにも様々な要因は存在しているが、経済的不安定による子育てへの負担感が最たるものであろう。

これらのことから、台湾で出生率を回復させ少子高齢化に歯止めをかけるためには、まずは若者世代の経済的な不安を緩和すべきである。しかし、少子高齢化は若者の経済的な負担を増大させるという負のスパイラルの要素を持つ。少子高齢化の進行はすなわち生産年齢人口の減少と社会保障費の増大を意味する。高齢者の暮らしを支える費用を若者に負担させた結果、出産・育児する経済的余裕がなくなり少子化が進む。これは台湾・日本どちらの国においても同様のことであろう。子育てに対する補助金などの経済的援助や公的保育サービスの拡充が求められる。

しまったことであるが、台湾の場合は日本の場合とは異なっている。台湾は世界的にも女性の高学歴化・社会進出が進んでいるといわれており、女性の大学・短大への就学率は2010年には7割を超え、また女性の2013年における44歳以下の労働力率は7割を超えている。こうした女性の社会進出が急速に進んだ結果、出生率は急激に低下し、少子高齢化が進行し始めたのは日本よりも遅かったのに対し、出生率では日本を下回る数値になってしまったといえる。また、女性の急速な社会進出によって非婚化・晩婚化が進み、少子化が訪れると予想されていたにもかかわらず、台湾政府が迅速かつ効果的な少子化対策を打ち出さなかったこと、それによって結婚・出産・育児の社会支援サービスの拡充が遅れたことも理由の一つとして考えられる。また、こうした支援サービスが高額であることから、人々の結婚・出産意欲が減少し、少子化に拍車をかけているといわれている。そのため、よりこうしたサービスを利用しやすくするような政策レベルでの対策が必要になっている。

そして、今後考えられる問題として、人口減による労働力の減少とそれに伴う経済競争力の低下による経済的衰退、また同時に高齢化による社会保障の負担の増加がおこるため、社会保障制度が維持できなくなるなど、経済状況や国家の維持に関して致命的な問題がおこると考えられる。

間接引用: [http://kakeiken.jp/old\\_kakeiken/jp/journal/jjrhe/pdf/108/108\\_06.pdf](http://kakeiken.jp/old_kakeiken/jp/journal/jjrhe/pdf/108/108_06.pdf)

# 班別レポート 経済・産業班

2022/1/9  
藤尾一成

台湾遠征 産業レポート  
～台湾の半導体産業～

近年、台湾の半導体産業への注目が高まっている。現在、米中ハイテク摩擦や半導体不足が長引き、半導体自体が戦略物資となってきた。その中で台湾や韓国といった半導体大国は、その半導体競争に巻き込まれている。以下では、なぜ台湾は半導体産業で世界トップクラスになったのかを、日本と比較しつつ調べていく。調べてみると大きく分けて3つの理由が挙げられる。

まず1つ目の理由は小さい島という立地性である。アメリカのシリコンバレーからも分る通り、半導体は一つの地域に集積化し、プロジェクトを高効率化させることが最も重要な産業であり、日本の企業のように生産と設計拠点が離れていては、どうしても競争力の面で劣ってしまう。一方で、台湾はシリコンバレーを研究し、産業都市を非常にコンパクトに作ったことで、シリコンバレーに匹敵するようなスピードで産業を発展させることができたと考えられる。

2つ目の理由は、水平分業が台頭したことである。日本のものづくりの多くは、一般的に垂直統合が多く、プロセス開発、商品開発、生産、販売を全て行う形態であった。それでも1990年代後半は、プロセス開発競争を行い、物として実現して物量で他国のメーカーを圧倒していた。しかし時代が変わるにつれて、先ほども述べた集積化と高効率化による競争力の激化により、全てを揃う垂直統合型という形態に無理が生じてきた。そして解決策として、インテリマイクロのように商品を絞って垂直統合を保持するタイプと、TSMCの様に生産のみに集中する企業、製品設計だけに注力したAMDやNvidiaなどのメーカーなどに分かれて生産するようになり水平統合分業が行われるようになった。(実際、1985年以降の20年間で日本の半導体シェアは20%下がってしまったのに対して、アメリカの半導体シェアは20%上昇している。)台湾のTSMCやUMCはその生産部門の代表格である。

3つ目の理由は政府の人材・産業育成政策である。2000年初めごろ、日本では国立大学の費用が削減されていたが、一方で台湾ではエンジニア育成に力を入れており、そこに多額のコストをかけていた。また、その史実あつてか、シリコンバレーで多くの台湾系の人々が仕事をすることになり、その後台湾に戻ってきて産業が拡大していった。また、経済陣の熱心な人材のトップハンティングも理由の一つとして挙げられる。

以上の理由から台湾はここ数十年で一気に半導体シェアを伸ばしてきた。これからも半導体が必要となっていく現代では、台湾や韓国などの半導体大国はさらに台頭してくるようになるだろう。

## 台湾と日本の経済規模比較と今後の考察

三年 細川 龍大

### 1. 日本と台湾の数値的比較

日本の国土は、364,500 km<sup>2</sup>、人口は1億2,390万人(2019年「国勢調査」総務省)、名目GDPは5兆2,300億ドル(2019年「日本経済2019-2020」内閣府)となっている。一方で台湾は国土36,000 km<sup>2</sup>、人口2,359万人(2019年「戸数、人口数、性別比例及人口密度統計表」内政部戶政司)、名目GDPは6110億ドルとなっている。したがって日本と台湾では、面積は約10倍、人口約5倍、名目GDPには約8.5倍の差がある。また、ここから一人当たりのGDPを計算すると、日本は一人当たり4万2,130ドル、台湾は2万5,900ドルとなり、両者には約1.6倍の差がみられることがわかる。台湾は国土・人口・名目GDPともに日本と大きな差がみられるが、それと比較すると、一人当たりのGDPは差が開いていない。

さらに、台湾の人口・経済的動向をみると、2019年を境に減少傾向がみられるが、GDPは上昇し続けていることがわかる。一方で日本は2010年をピークに人口は減少しており、1995年を境にほぼ横ばいとなっている。以上のような結果から台湾は人口から見られる経済動向は、日本と同様の変化をたどると考えられる一方で、GDPを目安とする経済動向は、日本と異なると考えられる。

### 2. 日本経済との規模比較から見える台湾経済の今後

上記の数値的な比較から見てくるのは、人口減少に伴う労働人口の減少と一人当たりGDPの上昇である。

前者は、日本の抱える問題と同様のものであり、少子高齢化が進む中で労働人口が減少することによって、働き手がなくなり経済に大きな影響を与える可能性があるということである。この問題に対して、外国人労働者の受け入れ、採用が解決策として主にあげられる。この点では、日本と台湾は共通しており、日本社会・台湾社会における外国人労働者の増加とそれに伴う経済発展が考えられる。今後50年の間に社会を構成する人々や人口形態に変化がみられ、それぞれの国の経済だけでなく、人口形態の変化に伴う社会的・政治的変化も求められていくだろう。

一方で、日本と台湾で異なる状況となっているのが名目GDPの変化とそれに伴う一人当たりのGDPの変化である。日本の名目GDPは1995年以降ほぼ横ばいで、一人当たりのGDPも大きな変化を見えていないが、台湾では1980年以降多くの場合において名目GDPは増加の一途をたどっており、約40年間で12倍となっている。それに伴う一人当たりのGDPも大幅に増加しており、このような状況から台湾経済は今後さらなる発展をたどると考えられ、これを見過した多くの外国人労働者の流入も見込めることのできるため、台湾の景気は楽観視することも可能である。一方で日本は以上のような状況から、早急に経済成長のための対策が求められるのではないだろうか。

# 班別レポート 歴史班

2023 台湾遠征班別個人レポート「日台関係の歴史に見る台湾が親日国な理由」  
1122062B 河野 右京

・現代の日台関係

2011年3月11日、日本の東北地方を大規模な地震、津波が襲い甚大な被害をもたらした。未曾有の災害に対し、世界各国が支援をしてくれたことは記憶に新しい。その中で最終的に200億円を超える義援金(世界一位)や政府への資金援助、物的支援、救援部隊派遣を行い、復興への手助けをしてくれた国こそが台湾なのである。

現在では、多くの日本人が観光やグルメを目的に台湾を訪れ、多くの台湾人もまた観光などを目的に日本へと訪れる。このように親日国として知られる台湾だが、そこには世界大戦と植民地支配など歴史的背景があるのだ。

・日清戦争と台湾

1894年、日本は日清戦争で清と交戦し、勝利をおさめた。翌年の1895年に清との間で結ばれた下関条約には以下のような記述がある。

「第一条 清国ハ朝鮮国ノ完全無欠ナル独立自主ノ国タルコトヲ確認ス。

第二条 清国ハ左記ノ土地ノ主権(中略)ヲ永遠日本国ニ割与ス。

一 左ノ経界内ニ在ル奉天省南部ノ地(中略)

二 台湾全島及其ノ付属諸島嶼

三 澎湖列島(中略)」

第四条 清国ハ軍費賠償金トシテ庫平銀二億兩ヲ日本国ニ支払フヘキコトヲ約ス。(以下略) 引用元:『日本外交年表並に要文書』

第二条第二項より読み取れるようにこの条約で台湾は日本の植民地化がおかれた。ここから日本の植民地支配がはじまる。

・日本の植民地支配

日本は台湾に「台湾総督府」(初代総督:樺山資紀)を設置し、抵抗運動は日本軍の圧力で鎮圧し同化政策を進めた。台湾の各地に神社を建設したり、日本語教育なども行った。台湾の高齢者に日本語が話せる方も多く、植民地支配の名残がある。

しかし、日本の植民地支配は圧政的なものだけでなく、産業発展や教育の進展を重視したのもあった。インフラを整備したり、社会資本を整え、教育を充実させて台湾の知識人層を増やした。日本はあくまで最終的な自国の利益のために台湾を支配したのだが、結果的に現代の台湾の産業発展の基盤を作ることとなった。

・まとめ

したがって、日本の植民地支配が結果的にのちの台湾の経済発展の基盤を作ることとなり、しばしば現地民からもちのち中国の支配との比較で日本の植民地支配が肯定的にとらえられることもあるようだ。これが現在の友好な日台関係につながっているともいえる。

## 台湾の民主化の過程について

松本希海

1. 台湾の以前と現在の政治体制の違い

台湾は1895年の下関条約で中国から日本に割譲されてから、台湾総督府がおかれ第二次世界大戦終了まで日本による植民地支配が続いた。現在台湾は民主主義国家をとり、国民の独立・民権の伸長・民生の安定の三民主義を守っている。また、日本は台湾を国として認めておらず、1972年に日中国交正常化を行った一方で台湾とは国交を断絶した。

2. 台湾の成り立ち

台湾の民主化の過程について言及する前に簡単に台湾の成立について記述する。台湾は16世紀ごろには後者の拠点となっており、17世紀からはオランダの東インド会社や中国の鄭氏による支配を受けてきた。終戦後、台湾には孫文率いる中国国民党が国共内戦に敗れ中国本土から追い出された際に逃げ込んだ。国民党が台湾を支配した際、蒋介石は戒厳令を敷き開発独裁政権を樹立した。また、その子である蔣経国によって台湾の重工業化を目指した大規模インフラ整備計画である、「十大建設」がすすめられた。その結果、台湾経済は急速に成長し現在では「アジア四小龙」に数えられるほどの経済規模を有するようになった。

3. 台湾の民主化の過程

次に台湾の民主化の過程について、蒋介石の子である蔣経国の時代から現在に至るまでを記述する。蔣経国は蒋介石から世襲制で相当を受け継いだ。1980年代には民進党を認め戒厳令を解除するなど、少しずつ軍事独裁体制を緩めていった。蔣経国の次に就任した李登輝は、初めて本省人出身(日本統治下の台湾出身)の総統となり民主化の象徴となった。台湾の民主化に大きな影響を与えたのが、1990年3月に発生した三月学生運動である。ここでは台湾の学生が「国民大会の解散」「臨時條款の廃止」「国是会議の召集」「政治経済改革時間表の提出」を要求し、李登輝もそれらを受け入れた。初めの総統直接選挙で当選するなど台湾民主化における重要な転換点となった。学生運動といえば、2014年3月にもひまわり学生運動が台湾の学生らによって行われ、サービス貿易協定に反対する学生がデモに参加して議場を占拠した。サービス貿易協定とは、中国と台湾の貿易自由化を目指すもので台湾と台湾発展のために早期承認を主張していた。それに対し、台湾の学生らは台湾の中小企業に対する脅威となり、また、台中間の政治問題における懸念から協定そのものの見直しを求めていた。この運動を受け立法院院長は、監督条例の合法案を決定するなど学生の要求に対して譲歩の姿勢を見せた。このことから台湾では民主主義が根付いていることが分かる。

## 班別個人レポート 文化班

台湾で使用される言語について

2年 山田美衣

岩崎玲奈

台湾に遠征に行くにあたって、現地で使われている言語について理解しておくことで、街中の言葉や道標に知り合う現地の人びとの言葉により興味をもつことができるだろう。本報告では、台湾で使用されている言語を紹介し、その中でも最も頻繁に使用される台湾の中国語「台湾華語」について詳しく説明する。

台湾の公用語は中国語である。台湾で中国語は國語（グオユ）または中文と呼ばれる。台湾で使われる中国語は発音の仕方や一部の単語・言い回しに特徴があり、「台湾華語」と呼ばれる。台湾華語の次によく使用される言語は台湾語である。台湾語は現地で台語と呼ばれ、中国の福建省南部にルーツを持つ言語である。地方住民や、高齢者の間でよく用いられる。中国語の特徴は声調にあるといえるが、中国語の声調は4種類なのに対して台湾語の声調は8種類存在する。台湾華語、台湾語のほかには、客家人が話す「客家語」、台湾の原住民が話す「原住民族語」がある。

ここからは、台湾華語の特徴を、大陸の中国語（普通話）と比較しながら述べていきたい。まず一つ目は、用いる文字の種類である。台湾では繁体字、大陸では簡体字が用いられる。「一橋大学」は簡体字表記で「一橋大學」（橋が簡体字で変化）、繁体字表記で「一橋大學」（字が繁体字表記で変化）となる。二つ目は、発音の仕方である。日本人が中国語を学習する際の壁となる発音にそり舌音というものがあるが、台湾華語は舌の巻きが弱く、そり舌音ははっきりしていない。また、中国語の発音のかなめとなる「ピンイン」も台湾でははっきり発音されず、抑揚が弱いといわれる。三つ目は、単語や表現の違いである。たとえば、「タクシー」という単語は中国語では「出租車」であるが、台湾華語では「計程車」または「小黄」と呼ばれる。ちなみに、小黄は台湾のタクシーが黄色いことに由来する。表現の部分で例を挙げると、中国語の普通話では「謝謝」（ありがとう）に対し、「不客气」と返答するが、台湾では一般的には「不會」と返答する。違いの四つ目は、二つ目の発音の仕方でも少々触れたが、発音記号の違い、具体的に言えばピンインとホボモフォの違いである。中国語は、ローマ字のピンインで発音を表現するが、台湾華語ではホボモフォと表現される注音記号が使用される。この注音記号の歴史は清の末期にさかのぼる。清では、様々な方言が使用される中、国に共通の「國語」を定める目的で1918年に「國音字母」として注音記号が定められた。その後、1930年に「注音符號」という現在の名称に改称された。ホボモフォはひらがなのように、母音（聲符）と子音（韻符）の組み合わせで中国語の音を表す。また、ひらがなのように小学校に入学して最初に学ぶことであるという。ここまで、台湾で使われる言語を紹介したが、実際に現地へ赴いた際には現地で使用されている言語に親しむことができたらよいだろう。言語を学ぶことはその国の文化を学ぶことであるとも言われる。日本語は漢字を使用しているため、繁体字であっても意味が分かる者・推測できるものは多いように感じる。英語での交流も大抵であるが、言語の面にも興味関心を持って海外遠征を楽しみたい。

台湾の文化・伝統行事

台湾には旧曆春節、端午節、中秋月の三大節句や、元宵節、台南鹽水蜂炮、中元節といった伝統行事がある。今回のレポートでは、三大節句と中元節について言及する。

### 1. 旧曆春節

春節は旧曆正月の元日から五日までを指し、春節の間にはいくつかの風習がある。初一と呼ばれる旧正月初日には年始回り、二日目には他家に嫁いだ娘が実家に帰る慣習があり、最後に五日目には市開きがある。伝統的な飾りつけとして、赤い紙に「福」や「春」といった縁起のいい言葉を書いた黒や金色のインクで書いた家の門に貼る「春聯」がある。春聯はさかさまに貼る慣習があって、これは中国語の「逆さま=倒（ダウ）」の発音が「到来=到（ダウ）」に通じることから「福到来」と「春到来」という意味を表すためである。

### 2. 端午節

端午節は旧曆5月5日で、楚の国の愛国詩人「屈原」を供養する日で、「詩人節」とも呼ばれる。ドラゴンボートレースが有名で、屈原が国の将来を憂いて川に身を投げたとき、付近の人々が船を出して助けようとしたことから始まったとされている。粽も有名で、川に身を投げた屈原が川の魚に食べられないようにと、笹の葉にご飯を包んで川に投げたことから始まったとされている。

### 3. 中元節

中元節は旧曆の7月15日である。台湾では旧曆7月を「鬼月」と呼び、旧曆7月1日に地獄の門が開かれて悪霊が世間に出てくると信じられている。特に地獄の門が大きく開かれるのが7月15日の中元節の日で、「中元普渡」という儀式が行われる。中元普渡は肉や魚、果物などを準備して廟の前や自宅の庭でお供えして亡霊たちが成仏するように祈るものである。また、他にも無病息災や家内安全を祈って複数のお祭りがあり、「放水灯」という精霊流しや、「搶孤」という儀式、灯籠流しがある。鬼月の間にはタブーとされることが多くあり、新しいことははじめることや、夜に写真を撮ること、夜に洗濯物を干すことが挙げられる。

### 4. 中秋節

中秋節は旧曆の8月15日を祝うものであり、「月祭り」とも呼ばれ、神に豊作を感謝する行事である。中秋節の満月には「団らん・円満」といった意味があり、家族で集まって一緒に過ごす。月餅を贈りあったり、柚子を食べたりする習慣があり、近年では、パーベキューをしながら月見を楽しむ人が多い。

## 班別個人スライド 経済・産業班

浅原大樹

### TFT-LCD産業を通して見る日華関係と台湾の成長性

経済学部2年浅原大樹

### TFT-LCD産業とは何か

・TFT-LCD産業とは、「液晶を生産する」産業

→近年では、スマートフォン・テレビ・ノートパソコンの画面に使用されているなど、現代のITには欠かせない産業

東アジアの企業がトップシェアを誇る

一位 サムスン（韓国）

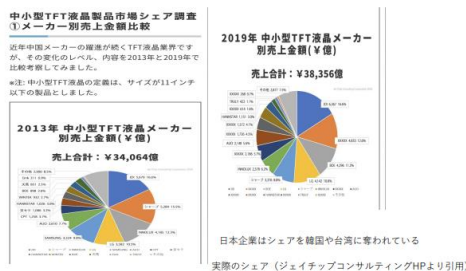
二位 LGディスプレイ（韓国）

その他、台湾や日本企業など

### TFT産業の発展

・ディスプレイ技術は日本が1920年台から研究を始め、TFT産業としては、1980年台に商品化に成功

・人件費の安さや安価な原材料によって東アジアで急成長  
・初期投資費用が高いため、政府による援助を受けて国家主による発展を遂げる



### 日華韓での生産コスト比較

項目	日本	台湾	韓国
労働力単価	100%	約50%	約60%
電気料単価	100%	約50%	約60%
土地単価	100%	約50%	約60%
材料単価	100%	約50%	約60%
設備単価	100%	約50%	約60%
税金	100%	約50%	約60%
その他	100%	約50%	約60%
合計	100%	約50%	約60%

台湾は法人税が半分の  
人件費も半額以下  
日本に比べて10%以上の利益

『台湾TFT-LCD産業発展過程における日本企業と台湾政府の役割』（赤羽淳）より

### 台湾TFT企業の発展

- 台湾のTFTは韓国や日本のそれとは違う発展を遂げた  
→政府主導ではない：日本企業からの技術移転が主体

日本：人件費や法人税を抑えることができる  
台湾：自国生産で市場参入できる  
→日華間の連携は両者にメリット

現在では生産量は日本を超えて韓国に迫っている

### 日華間の協力関係

企業名	設立年	本社	台湾拠点	事業内容
京セラ	1959年	日本	1988年	液晶ディスプレイ
日立	1910年	日本	1988年	液晶ディスプレイ
東芝	1875年	日本	1988年	液晶ディスプレイ
三菱電機	1872年	日本	1988年	液晶ディスプレイ
富士通	1935年	日本	1988年	液晶ディスプレイ
日立製作所	1910年	日本	1988年	液晶ディスプレイ
京セラ	1959年	日本	1988年	液晶ディスプレイ



『台湾液晶産業の発展と企業戦略』より引用

### 日本企業を超える台湾企業メソッド①

- 技術移転が元なので、開発コストを低く抑えることができる
- 他国企業との独自の開発チャネル  
→液晶産業クラスターの建設



### 日本企業を超える台湾企業メソッド②

- あえて2位の位置にいること（二番手の優位性）  
液晶業界は投資に対するリターンが不確実であり、一回あたりの投資額も多くなるので、先駆者の投資状況を見てから、開発に動くことで、リスクやコストを減らしている  
→その分の費用を他に充填することが可能

### まとめ

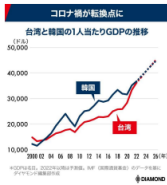
- 台湾企業の成長には日本企業をはじめとする他国企業との分業体制により利益を得ている
- 投資に対するリスクを減らし、適切なタイミングで投資することで経費を削減している

## 坂上光

### 近年の台湾経済

コロナ禍の記録的成長

### 近年の台湾経済の記録的な成長



2020年に3%・2021年に6%の成長  
(数年後に韓国を超える見通し)

↓  
個人所得の増加、民間消費の拡大  
(経済成長の好循環)

#### 【要因①：米中対立】

- 米中対立ともなう世界的なサプライチェーンの見直し  
→台湾企業が中国から回帰  
→産業の空洞化の解消

・グローバル企業の台湾への投資：GoogleやMicrosoftの参入



#### 【要因①：米中対立】

- 蔡英文政権の政策：2017年に産業革新を促進する政策を導入



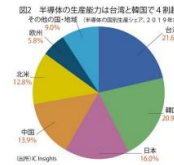
↓  
台湾企業の中国からの回帰を後押し

【要因②：デジタル化の加速】

- 世界的なデジタル化の加速によるハイテク産業の需要の高まり
  - データセンター向けの需要↑
  - EV普及にともなう自動車向け需要↑
  - これらには**パワー半導体**が不可欠
  - 省エネ化・省電力化に大きく貢献
  - 脱炭素化の流れも受け、需要拡大ペースはさらに加速

【要因③：世界的な半導体不足】

- 世界有数の半導体供給基地（右図）
- サプライチェーンの集積が加速  
半導体関連分野
- 半導体輸出額は2020年以降も  
**年率25%程度のプラス**を維持



【要因③：世界的な半導体不足】



【要因③：半導体不足】

- TSMC：台湾が誇る世界トップの半導体企業  
Taiwan Semiconductor Manufacturing Company
- 時価総額は**60兆円**を超える（日本のトヨタの倍）
- 主に製造を担うため工場を持つファウンドリー企業  
TSMCが発展させた型  
→世界中の主要ファブレス企業のニーズを集約



日本企業への影響

- 台湾当局によるハイテク産業の誘致
  - 半導体
  - 5G
  - 再生可能エネルギー
  - バイオメディカル
- 日本企業の新規参入の余地



日本企業への影響

- 台湾における「日本」というブランド価値の認知
  - ショッピングモール、ホテル、小売、飲食などに事業展開の潜在力
  - 例：ユニクロ（ファーストリテイリング）
    - =台湾のアパレル市場で強い存在感（シェアNo.1・認知度90%）
    - 国民的ブランドに成長（店舗数69店以上）



班別個人スライド 歴史班

小西貫太郎

### 台湾の2大政党

#### 国民党 (中国国民党)

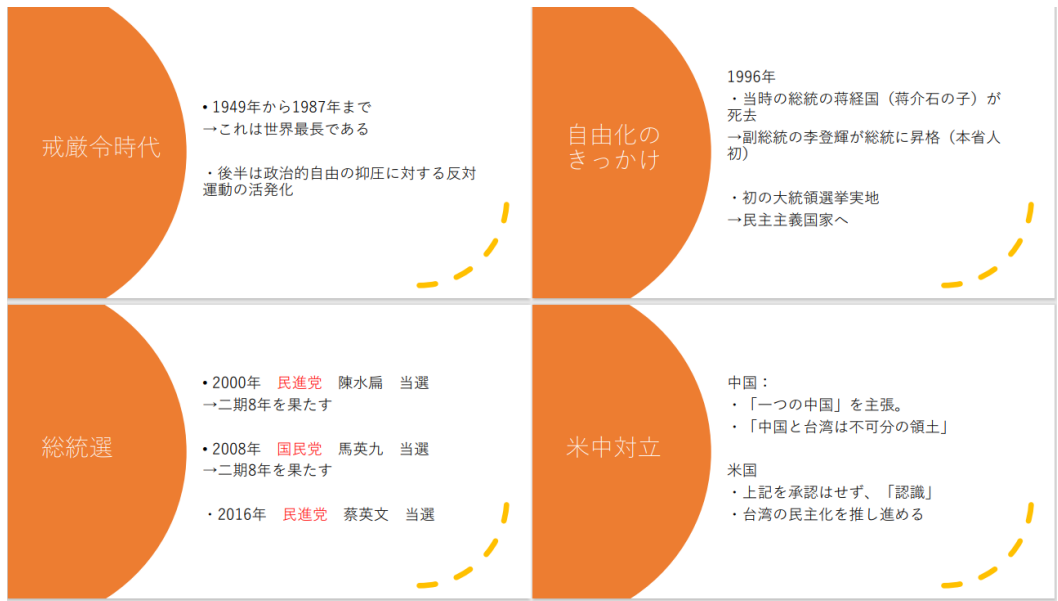
- 孫文や蒋介石が有名。
- そのルーツから中国には温和な態度を示し、経済的な結びつきを重視
- 親中派
- 右派

#### WW2以降の台湾

- 第二次世界大戦以後 日本軍統治→国民党の統治
- 外省人（中国出身）が本省人（台湾人）を統治という構図

#### 民進党 (民主進歩党)

- 民主化を大きく進めた
- 中国には強い反対の姿勢を示す一方、同性婚アドの多様な価値観には寛容
- 親米派
- 左派



## 常澤創

班別個人プレゼンテーション  
～台湾と中国の関係～  
常澤 創

**1. はじめに**  
**近年の台湾と中国の関係**

- ▶ 非常に悪化
  - ・「過去40年間で最悪」（台湾国防部）
  - ・中国軍の展開
  - ・アメリカ軍の演習
  - ・日本への影響も？
- 台湾と中国の関係はなぜ悪化している？

**1. はじめに**  
**なぜ悪化しているのか**

- ▶ 歴史認識の相違が原因
  - ・台湾も中国も同じ民族。ただし、歴史認識が異なる。
- ▶ 台湾側の主張
  - ・台湾は主権国家である。中国の一部となったことは歴史上ない。
- ▶ 中国側の主張
  - ・台湾は中国の一部である。

**2. 第二次世界大戦以前の台湾と中国の歴史**  
**清王朝と日本による支配**

- ▶ 清王朝による支配
  - ・17世紀以降に清王朝によって台湾は支配された。
- ▶ 日清戦争と下関条約
  - ・1894年の日清戦争で清に日本が勝利。
  - ・下関条約によって台湾は日本に譲渡される。
- ▶ 日本の支配
  - ・以降、第二次世界大戦終戦まで台湾は日本の統治下に。



### 3. 第二次世界大戦以降の台湾と中国の歴史

#### 台湾の解放と中国の内戦

- ▶ 台湾の解放
  - ・日本の敗戦を受け、台湾は日本の統治下から外れて中国のものに。
- ▶ 中国の内戦
  - ・国民党（リーダー：蒋介石） VS 共産党（リーダー：毛沢東）
  - ・共産党が勝利し、1949年に中華人民共和国が成立。

### 3. 第二次世界大戦以降の台湾と中国の歴史

#### 国民党の台湾統治と台湾側の主張

- ▶ 国民党の台湾への逃亡
  - ・共産党に内戦で敗北
  - ・蒋介石らは台湾へ逃亡

→以降、数10年にわたり蒋介石ら国民党が台湾を統治。

**→台湾側の主張：「台湾は主権国家である」**

### 3. 第二次世界大戦以降の台湾と中国の歴史

#### 中国側の主張

- ▶ 台湾は“中国の一部である”
  - ・1949年に中華人民共和国が成立して以降、共産党が中国を支配。
  - ・台湾は国民党が統治。
  - ・台湾を“再統一”

**→中国側の主張：「台湾は中国の一部である」**

### 4. 台湾有事の可能性

#### 台湾の半導体産業

- ▶ 近年の中国
  - ・急速な経済発展
  - ・半導体需要の増加
- ▶ 台湾の半導体産業
  - ・半導体の世界シェアの半数を占める。
  - ・半導体生産の技術、半導体産業による経済力を持つ。

**→中国が再統一を狙う**

### 4. 台湾有事の可能性

#### 台湾側の受け止め方

- ▶ “今日の香港は明日の台湾”
  - ・香港問題以降、台湾においても不安が増大。
  - （→若者の政治参加の一因）
- ▶ 軍事力は中国に軍配
  - ・戦力、軍事費、経済力、など多くの指標において中国に軍配。
  - ・ウクライナ問題を契機に、中国とロシアがさらに接近。

### 5. おわりに

#### 台湾有事は他人ごとではない

- ▶ 日本への影響
  - ・半導体不足になるのは明らか。
  - ・シーレーン封鎖によって貿易にも影響が。
- ▶ 軍拡を続ける中国海軍
  - ・すでに第一列島戦を突破。次に狙う先は？
  - ・三隻の空母、“空母キラー”の実力は？
  - ・アメリカ第七艦隊の老朽化問題

班別個人スライド 文化班

木村知輝

## 台湾の宗教について

学籍番号：3120061H  
学年：3  
学部：法  
氏名：木村知輝

### 其の1：台湾の宗教の歴史

- ・台湾は常に多くの国や地域から影響を受け続けてきた地域
- 歴史的に多種多様な宗教が混在してきた
- ・そのため、一概に台湾の宗教について語ることはできない。
- 個別に紹介する

### 道教

- ・西晋末から明の時代に広まった
- ・台湾で普及したのは、中国南部の正一教
- ・護符や呪文などの儀式を重んじる
- ・近代以降には仏教と融合し、広く普及
- ・現代でも多数の信者がいる



※儀式の一部(イメージ)

### 仏教

- ・10世紀に観音信仰が隆盛し、多くの寺院が建立された(ex. 芝山殿、宝蔵殿)
- ・清朝の時代には道教や儒教と融合、日本統治時代には国家神道の影響も
- ・第二次世界大戦後、中国本土から多くの部教関係者が台湾へ逃れてきたことから、中国本土の仏教の影響により、大乘仏教へと主流が変化、禪宗・浄土宗が多数派になった。



芝山殿

### キリスト教

- ・17世紀初頭に伝来
- ・オランダの統治時代に、イギリスの宣教師が布教したため、プロテスタントが主流
- ・カトリックはスペインがオランダに排除されたため、布教されず、解禁されるのは1858年の天津条約締結後
- ・現在の台湾の最大教派は台湾基督長老教会(プロテスタント系)

### その他の宗教

- ・一貫道(清で創始された宗教)
- ・イスラム教
- ・天理教
- ・民間信仰(儒教、仏教、道教が融合したもの)

上記のほかにも様々な宗教が存在しているが、細かすぎるため割愛

### 台湾における宗教を取り巻く事情

- ・台湾では宗教の自由が認められている
- それぞれの宗教は平等に扱われる
- ・政教分離が原則
- 国と宗教の関係は日本と同じ!!

### 各宗教の人口割合(台湾と日本の比較)

台湾

■ 民間信仰 ■ 仏教 ■ キリスト教 ■ その他

日本

■ 神道 ■ 仏教 ■ キリスト教 ■ その他

### 台湾の宗教は割合で見ても非常に多様

- ・台湾の宗教は世界的にみても多様
- それは歴史的な背景が大きいと考えることができる
- ・最も信者が多いのは、道教、仏教、儒教が融合した民間信仰であるということが、台湾の宗教を語るうえでは外せない

END.

竹内陸人

### 台湾の伝統工芸品に関するプレゼン

3年竹内陸人

### 廟 (miào/神様を祀っている場所)

→廟の色鮮やかで美しい装飾、これは「交趾焼」と「剪黏」と呼ばれる陶製の伝統工芸

### 「交趾焼」について

- ・「交趾焼(こうちやき)」とは、交趾陶、嘉義焼とも言われている陶芸で、廟の壁面の飾りとして民話の人物や模様などを立体的に表現し、釉薬をかけて低温で焼き上げたもの

### 「剪黏」について

- ・「剪黏」は、陶器の破片を使って形を作る。昔はお茶碗の割れた破片で作っていたそう。今は、破片は割れたお茶碗ではなく、専用に焼いたものを工具で細かく切って作られている。

## 交趾焼と剪粘の現状

・高度な技術の習得は長い年月が必要とされるため、現在この仕事に従事する人も少ない上、後継者も少なくなっている。特に細かい作業の続く「剪粘」ができる人は少ないと言われている。この技術を習得するまでかかる時間は3年4ヶ月以上とも言われ、その間は給料もない。その後は皆独立してお店を持つことになるが、若者でこのような道を選ぶ人は今ほとんどいない現状がある。

## 台湾の生活に溶け込む多彩な竹細工

→竹材の豊富な台湾では、古くから身の回りのいろいろなものが竹（バンブー）で作られてきた。扇、茶道具、筆、かさなどの小物から、農具や背負い籠、椅子、机、棚といった家具に乳母車、川を渡る「いかだ」に家屋まで。



・「竹の各部位とそこから作られたものを描いた図」、国立台湾工芸研究発展中心

「母子椅子」  
(台湾語：プー キャア イー) と呼ばれるベビーチェア

・幼児がつかまる前側の部分には輪切りの竹が通され、くるくると回したり動かしたりして遊べる仕掛けになっている。成長に合わせて向きを変えて使うこともできる。釘を使わず竹で組み立ててあるから丈夫で安全



## 藍胎漆器の技法で作った、テーブルと椅子、茶道具のセット

・いぶした竹編みの上に何層も漆を塗り重ねて作られた茶器や籠は深い色味を帯び、温かみと強靭（きょうじん）さを併せ持つ。



